



三徳開教110年

平成30年

7

月号

No.585

法音



「感謝と親切」が本当の幸せへの道です

日蓮宗

法音寺



知恩報恩

感謝と親切

今日一日、
受けた恩に感謝しましょう。
恩を忘れぬ人は信頼されます。
今日一日、
人に親切にしましょう。
人が喜び、自分もうれしい。
仏の教えは
知恩報恩の人となることです。

月刊・法音

平成三十年七月号「585」

■目次■

【信仰の指針】喜神^{きしん} 心の奥深くに喜びがありますか 1

「感謝と親切」が本当の幸せへの道です

山首 鈴木正修 2

三徳開教百十年慶讃・天童音楽大法要

講日のご案内 13

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 58

ほうろく加持・虫封じ祈禱のご案内 57

まんが・お盆とお施餓鬼 60

孟蘭盆会・施餓鬼供養とは… 61

とこのはの記 一分八間 69

のりのね体験 いま・昔 72

のりのとも 西に東に 転法輪・支院だより 76

福祉に生きる 昭徳会・特集 第10回 福祉実践発表会 80

福祉のひろば 児童養護施設の現場から「親の思い・生い立ちの整理…」 88

【特別寄稿】日本福祉大学付属高等学校 98

新入生、「建学の精神」を学ぶ 96

幸せの種まき／編集後記 112

連載まんが・ひまわり・66 一先祖さま巡り 113

書籍のご紹介 112

法音寺の社会福祉・教育事業 112

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま 書 表紙写真・あじさい

掲載写真 表紙・信仰の指針・3頁・12頁・57頁…梅田雅臣氏撮影
2頁・13頁・56頁・60頁・71頁…加納将人氏撮影

信仰の指針

喜^き神^{しん}

心の奥深くに喜びが

ありますか

日教五





朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

「感謝と親切」が

本当の幸せへの道です

中国の宋の時代に戴益という詩人がいました。戴益には『春を探る』という詩があります。

「終日春を尋ねて春を見ず、藜を杖つき踏破す、幾重の雲。帰り来たりて試みに梅梢を把りて看れば、春は枝頭に在って已に十分」

一日も早い春の訪れを待ち望んで、春の息吹を見つけ出そうと終日、探し回った。藜の杖で幾重もの雲を越えて探し回ってみた。しかし、春は見つからない。くたびれ果てて我が家の庭に帰ってきて、ふと梅の梢を手にとってみれば、梅の花がふくらんでいるではないか。春は



この一枝えだにあって已すでに十分じゅうぶんではないか、という意味いみです。
幸しあわせもこれと同じです。一生懸命いっしょうけんめい、いろいろなところを
私達わたくしたちは探さがしますが、実は幸しあわせも本当ほんとうに身近みぢかなところにあ
るのです。

ドイツの詩人しじん、カール・ブッセに『山やまのあなた』とい
う有名ゆうめいな詩しがあります。上田敏うえだびんの訳やくが有名ゆうめいです。
「山やまのあなたあなたの空遠そらとおく 幸さいわい 住すむと人ひとのいう。ああ、
われひとと尋めゆきて、涙なみださしぐみかえりきぬ。山やまのあ
なたになお遠とおく 幸さいわい 住すむと人ひとのいう」
幸しあわせをいくら遠とおくに求めても、求めれば求めるほど見
つかりはしない。かえって遠とおざかってしまうということ
です。

では、どうやって幸しあわせを感じかんじればよいのでしょうか。そ



それは「感謝」をすることです。感謝の心が芽生えたと、その瞬間に「ああ、幸せはここにあったんだ」と気づくことができるのです。「ここにあった」というよりも「心の持ちようだった」という方が正しいかもしれません。先師が言われる通り、「地獄も極楽も心一つの置き所」です。不平不満を言って、怒ってばかりいれば、そこは地獄です。感謝と堪忍で暮らせたら、そこは極楽です。

人は誰しも、与えられた環境があります。その中で決して不平不満を言わずに、感謝して最善の努力をすることが真の幸福への道です。

足無禪師と言われた小沢道雄師という方がおられました。その名の通り両足の無いお坊さんです。

小沢師は両足を失ってからお坊さんとして活躍されました。この方の自伝を読み、両足の無い不自由な境遇の



なか
中でよくこれ程元氣に楽しく前向きに生きられるものだと感心（かんしん）をいたしました。

おざわし おさな こころ
小沢師は幼い頃、曹洞宗の専門道場で修行（しゆぎやう）をされました。日蓮宗（にちれんしやう）で言うところの沙弥（しゃみ）です。そして20歳（さい）の時、徴兵（ちやうへい）され、満州（まんしやう）に行かれました。

しょうわ ねん しやうせん わか とき おざわし さい
昭和20年の終戦を迎えた時、小沢師は25歳でした。すぐにシベリアに抑留（よくりゆう）されました。しかし終戦の直後（ちやくご）に受けた銃創（じゆうそう）が悪化（あくか）し、強制労働（きやうせいろうどう）に向かないということ（む）で、屋根（やね）のない貨車（かしゃ）で牡丹江（ぼたんかう）の旧日本軍（きゅうにほんぐん）の病院（びやういん）に送（おく）られました。その時のシベリアの気温（きおん）は氷点（ひやうてん）下50度（ど）だったそうです。

ふくでう しやうせんとうじ なつふく にち しよくしやう
服装（ふくでう）は終戦（しやうせん）当時の夏服（なつふく）で、一日（いちにち）の食糧（しよくしやう）はカチカチのパン（ぱん）が一つと飲み水（のみみず）が少し（すこ）しだったそうです。三日間（さんか）かけて牡丹江（ぼたんかう）の病院（びやういん）についた時（とき）には、半分（はんぶん）以上の人が凍死（とうし）していた（いた）とい（い）います。小沢師（おざわし）も命（いのち）は助（たす）かりましたが、足（あし）が凍（とう）



傷で腐り始め、病院の先生に「両足を切断しましょう」と言われました。その時、小沢師は「なるべく同じ長さにそろえて切ってください」と言われたそうです。生来ユーモアのある方です。しかし、手術をする時には麻酔がない上に、足を切断するのもメスとノコギリで、肉と骨をじわじわと切るしかなかったそうです。また、手術を担当する軍医は内科医で、一度も切断手術をしたことがない人でした。手術で命を落とす同僚も大勢いましたから、小沢師も不安と恐怖で眠れなくなったのですが、当日、メスを執る先生がしばらく祈るように目を閉じた姿を見て、「この軍医に切られるなら本望だ」と思ったそうです。それでも手術は想像を絶する激痛で、歯がガチンと噛み合い、全身がギリツと音を立てて硬直しました。あえて「痛い」という言葉で表すなら「痛い、痛い、痛い」と百万遍叫び、その百万遍の痛さを一瞬の間に凝



縮しゆくしたような痛みいただったそうです。しかも、その一瞬いつしゆんが二時間じかんも続つづいたというのです。あまりの痛みいたで呼吸こきゅうをすることができないくらいだったそうです。この痛みいたが手術じゆつの後あと一カ月程げつほどつづ続つづいたといいます。

しばらくして、足あしが無なくなって動うごけない小沢師おざわしに帰国きこく命令めいれいが出でました。歩あるくことができないので担架たんかで運はこばれることになり、運はこぶ4人の兵士へいしが選抜せんぱつされましたが、野宿じゆくをした時とき、4人にんは小沢師おざわしを草むらに置おいて、いなくなつてしまいました。荒野こうやに置おき去ざりにされた小沢師おざわしはありったけの声こえで「助たすけてくれー！」と叫さけびました。それが満州開拓団まんしゅうかいたくだんの人達ひとたちに聞きこえたのです。開拓団かいたくだんの人達ひとたちは親切しんせつで、自分達じぶんたちも大変たいへんなのに小沢師おざわしを近くちかの町まちまで運はこんでくれました。そのお陰かげで日本にほんに帰かえることができたのです。

文字通りもじどおり、命いのちからがら日本にほんに帰かえってきた小沢師おざわしは小倉こくら



の病院で再び手術を受けました。その後、お母さんと弟さんが会いに来ました。お母さんは、包帯に包まれた両足をさすりながら「よう帰ってきた。よう帰ってきた。とにかく命があって良かった」と喜びました。弟さんは「お兄ちゃんは良かった。上のお兄ちゃんはフィリピンで亡くなったけど、お兄ちゃんは命があって良かった」と言いました。そう言われても小沢師は、情けないやら悔しいやら悲しいやらで、絶望のどん底です。しかしその中で昔覚えた観音経の「念彼観音力」が浮かんできたのです。「念彼観音力」を唱え続けるうち、一つの悟りに至ったのです。それは「比べるからいかん」ということでした。「27年前に生まれた時は五体満足だった。その時と比べるからいかん。『本日ただいま誕生』と思えばいいのだ。そう思えば両足が無いことも何も問題は無い」と思えたのです。



それ以来、小沢師にとって『本日たたいま誕生』が
題目のようになりました。義足をつけてリハビリをする
時、切断面がものすごく痛みます。その痛みを感じた時、
「痛い」ではなく『本日たたいま誕生』と自分に言い聞
かせたそうです。そして、「自分は仏さまから許されて
生きている。許されて生きているのだから、当然感謝の
念を強く生じさせなければいけない。その感謝の念をも
とに、日々の生活の中で何かこの社会のために奉仕を
しなければ仏さまに対して申し訳がない。普通の人はすぐ
にそれが行動につながっていくが、自分の場合は両足が
無い。だから何もそのお返しができない。できないから
私は四つのことだけを絶対を守ろう」と誓ったのです。
一、「微笑を絶やさない」

（微笑は人間だけが持つすばらしいものである。こ
れが癖になると生活の滑りが良くなる。私の生活の



知恵ちえである

二、「人の話を素直に聞きこう」

（自分じぶん以外はすべてが先生せんせいである。愚かなる者ものへ自分ぶんの至いたった結論けつろんである）

三、「親切にしよう」

（親切しんせつにしようというのは、若干積極じつかんせつきよくてき的な意味いみも込められている。許ゆるされていることのお返かえしがここにあるのだ）

四、「絶対に怒おこらない」

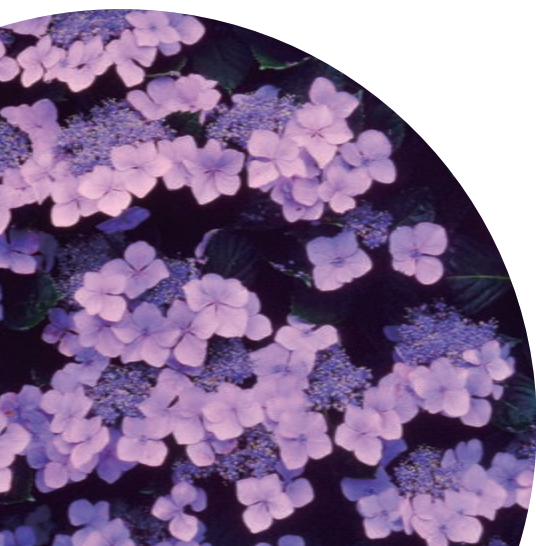
（怒おこらないというのは、どう考かんがえても、どこを探さがしても、ありがたくて怒おこる理由りゆうが見みつからないのだ）

まさに三徳実行さんとくじつこうの誓ちかいです。今いまがどんな状況じょうきょうにあつても、感謝かんしゃと堪忍かんにんで頑張がんばると幸福こうふくがやってきます。小沢師おざわしはそのことを実証じつしょうされました。



小沢師は都合四度の切斷手術を乗り越え、不自由な足
で生涯托鉢行脚され、曹洞宗の正式な僧侶となり、住職
となってお寺を再興され、また保護司に任命され、多く
の人を幸福な境涯へと導かれました。その生涯は『本日
ただいま誕生』という本になり、それを元としてテレビ
ドラマ・映画・演劇となりました。

どんな境遇にあっても、感謝と堪忍を忘れなければ幸
福はそこにあります。



三徳開教百十年慶讃 顕修院日達上人第七回忌 天童音楽大法要

月大吉祥日 大乘山 去





慶讃文奉読

慶讃文



南無輪圓具足未曾有大曼荼羅勸請の諸尊、南無末法唱導師本
 化上行高祖日蓮大菩薩、宗門歴代如法勲功の先師先聖、殊に
 は当山始祖廣宣院殿安立大法尼、二祖弘教院殿宗玄大徳、御
 開山泰山院日達上人、第二世顕修院日達上人等、来臨影嚮知
 見照覧の御宝前に於て、恭しく一乗圓頓の法筵を展べ、超八
 醍醐の法味を捧げ、以て当山開教壹百年を慶讃し、併せて
 第二世顕修院日達上人第七回忌の御報恩に擬し奉る。
 伏して史を按ずるに、当山は明治四十二年始祖廣宣院殿安
 立大法尼が仏教感化救済会を創建せられしより、法燈連綿と
 して壹百有十年なり。



「生ある者は必ず滅す。今滅するとしたならば今生の貯は後生の助けとなるや。迷えば夢の中である。今世の宝は功德なり。尊き金は我が身の徳を積む事に使われよ。徳を積みば必ず財も得らるる。災難も脱るる。よく之を思惟して堪忍をせられよ。精神修養に努められよ。一家治まれば一國治まる。我が国は必ず世界に勝れたる國となる」

これ最後の御教訓なり。

昭和七年、二祖弘教院殿宗玄大徳、第二代会長に就任。忍難慈勝 日夜布教に精進し、救済会を法人化し、財団法人大乘報恩会を設立。さらに事業拡充を図り現在地に本部を移転。近代建築の大乗会館を建立。しかしながら、戦中宗教団体法により宗教活動は制限され社会事業のみの運営となる。

昭和二十二年御開山泰山院日進上人、法燈を継承されるや、



ほうに りそうじつげん も ひつせい がんぎよう
法尼の理想実現を以って畢生の願業となし、同年日蓮宗昭徳
きようかい せつりつ しやうわ ねん にちれんしゅうだいじやうざんほうおんじ
教会を設立。昭和二十五年には日蓮宗大乘山法音寺と寺号公
しやう じらい みやうほうせんぶ しゅじやうさいど まいしん ぜんこく ほうおんじ えんとどう
称。爾来、妙法宣布、衆生済度に邁進。全国に法音寺を縁頭
とする二十四の寺院・教会・結社を設立せらる。一方昭和二
ねん しやかいふくしほうじんじやうとくかい かい せせつりつ よくとし ふくし
十七年には社会福祉法人昭徳会を改組設立。翌年には福祉の
じんざいいくせい めざ がっこうほうじんほうおんじがくえんにほんふくしだいがく そうつりつ
人材育成を目指し、学校法人法音寺学園日本福祉大学を創立。
ふくしこつ かけんせつ よく にな ちやうや じよしやうじん ぼさつぎやう
福祉国家建設の一翼を担う。昼夜常精進の菩薩行。その功勞
てんちやう たつ きやうちやう はいえつ こうえいりやうど およ
天聴に達し宮中に於ける拝謁の光榮兩度に及ぶ。

しやうわ ねん だいにせいけんしやういんにつたつしやうにんほうしよく つつ あわ
昭和三十七年、第二世顕修院日達上人法燭を継がれ、併せ
て昭徳会理事長、法音寺学園理事長に就任。昭和四十三年、
しやうとくかいりじちやう ほうおんじがくえんりじちやう しやうわ ねん
ごかいさんしやうにんだい かいき きしん しゅくがん だいほんどう こんりやう つつ かい
御開山上人第七回忌の忌辰に宿願の大本堂を建立。次いで開
さんどう くりとう がらん せいび しやうわ ねん しよどらうつけいてんどうおん
山堂、庫裡棟、伽藍を整備。昭和四十八年、諸堂落慶天童音
がくだいほうやう けんしやう しおんほうしや じやうがん は
楽大法要を虔修し、師恩報謝の淨願を果たさる。さらに教団



の護持発展を鑑み、法人統一を成し遂げらる。現在、傘下に東北山形から九州天草に至る四十の支院・布教所を数える。

また昭徳会は日本有数の社会福祉法人となり、十八の拠点施設に於て五十一の事業を運営するものなり。日本福祉大学は

全国屈指の社会福祉の総合大学となり、四つのキャンパスに八学部並びに付属高校、専門学校を展開するものなり。これ

日達上人中興の偉業なり。

本年、安立大法尼が三徳の教旨を高く掲げ、法輪を転ぜられてより茲に壹百十年、教勢の拡大目を見張るものあり。これ全て仏天の御加護と先師先聖の御遺徳並びに外護の檀信徒の赤誠、有縁の人々の積善の賜と沙門日教、深く心中に感ずるものなり。

本日道場を莊嚴し、同信の僧俗相集いて御宝前に拝跪し、



ししん ぶつぎょうだいに
至心に読経唱題し、始祖安立大法尼の素志を遂行せんことを
せいがん たてまつ
誓願し奉る。

あお ねが
仰ぎ願わくは上来勸請の仏陀諸尊、高祖日蓮大菩薩、始祖
こうせんいんでんあんりゅうだいはうに にそぐきょういんでんそうげんだいとく
廣宣院殿安立大法尼、二祖弘教院殿宗玄大徳、御開山泰山院
につしんしょうにん だいにせいけんしょういんにつたつしょうにんとく われら けいさん びせい のう
日進上人、第二世顕修院日達上人等、我等が慶讃の微誠を納
じゆ だいじごねん みて たま
受し、大慈護念の御手を垂れ給わんことを。

な む みょうほうれん げきやう
南無妙法蓮華經

これときへいせい
維時平成三十年五月十三日

だいじょうざんほうおんじだいさんせいでんとく
大乗山法音寺第三世伝燈 廣顯院日教

けいしゆわなん
稽首和南

山首上人さま ごあいさつ

皆さま本日は、三徳開教百十年、顕修院日達上人第七回忌の御報恩大法要に御参列をいただき心より御礼を申し上げます。

明治42年に始祖安立大法尼が、世の人々を御仏の世界に教導しようと三徳の大旆を掲げられ、仏教感化救済会を創立されてより本年で数えて百十年であります。

その間、四人の先師の不惜身命の御精進と数多の檀信徒の赤誠によって法灯は連綿として受け継がれてきました。

始祖は貧・病・争に苦しむ人々の救済に東奔西走されました。時代は進み、現在日本は大変豊かな国になりました。

しかし、世の人々の悩み苦しみというものは、全く変わっていないように思います。見方によっては、より深刻で多様化していると言えるかもしれません。

私はこれからの時代、益々、三徳の御教えが重要となってくると思います。始祖は言われました。「何を置いても先ず諸仏善神に喜ばれる行いをすることが肝心である」

その行いこそが、慈悲・至誠・堪忍の実行と行住坐臥のお題目です。どうか皆さま、始祖の御教えを日々実行されて、その喜びを世の人々に伝えていただきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

本日は御参詣、誠にありがとうございました。

式次第

三徳開教百十年

御報恩法要

初、開式之辭
次、灑水散華
次、天童献華
次、天童献香
次、天童献供
次、献灯・献華
次、師衆昇堂
次、道場偈
次、三宝礼
次、勸請
次、開經偈

次、天童祭文
次、写経献納の儀
次、方便品
次、咒讃鏡鉞
次、慶讃文
次、自我偈
次、祖訓
次、唱題
次、宝塔偈
次、回向

顯修院日達上人第七回忌法要

次、勸請
次、神力品
次、鉞題
次、唱題
次、回向
次、四誓願

次、御経頂戴
次、挨拶
次、奉送
次、師衆退堂
結、閉式之辭



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では毎月の講日の中で
三徳の教えを聞くことができます。

是非講日にご参詣いただき、
教えを心にしみ込ませましょう。

法音寺本山は毎月7日、17日、27日が講日です。

◆今月の山首上人さまご親修日程

田川支院	7月1日(日)	岐阜支院	7月4日(水)
上野支院	7月8日(日)	福山支院	7月15日(日)
泰明寺	7月20日(金)	東京支院	7月21日(土)
大阪支院	7月29日(日)		

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日など	住 所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	1日・15日・21日・28日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市中心4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	8日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・28日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825 ☎連絡は本山事務局へ
佐屋支院	4日・8日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0567)32-1825
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0586)72-7208
西春支院	2日・12日・21日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(0568)22-5813
岐阜支院	4日・12日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)245-2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(058)388-2740
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0584)78-4854
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)22-0776
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)23-3771
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(0575)65-3933
四日市支院	3日・13日・21日	四日市市赤堀2-4-7	☎(059)352-3633
上野支院	1日・8日・21日	伊賀市上野向島町3475	☎(0595)21-0127

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	1日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	8日・23日・29日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
福井布教所	21日	あわら市春宮3-28-2	☎(0776)73-5234
和泉支院	1日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(0724)66-3112
神戸支院	14日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	1日・7日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	1日・15日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	14日・22日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	7日・22日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	14日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	1日・15日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(0920)44-5445
筑後布教所	8日・22日	筑後市大字西牟田5954-11	☎(0942)53-7273
天草布教所	2日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	1日・22日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-11819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・29日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	9日・22日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

ほうろく加持・虫封じ祈祷のご案内

昔から頭痛は「悪鬼」の障り、

子どもの体調不良は「かん瘡の虫」が原因
と言われてきました。

ほうろく加持は頭痛除けと暑気払いのため。

虫封じは子どもが健康に過ごすため。

夏を乗り切る元気をいただくご祈祷です。

お寺に来られない方もタオルや衣類などにご祈祷のお徳をいただくことができます。

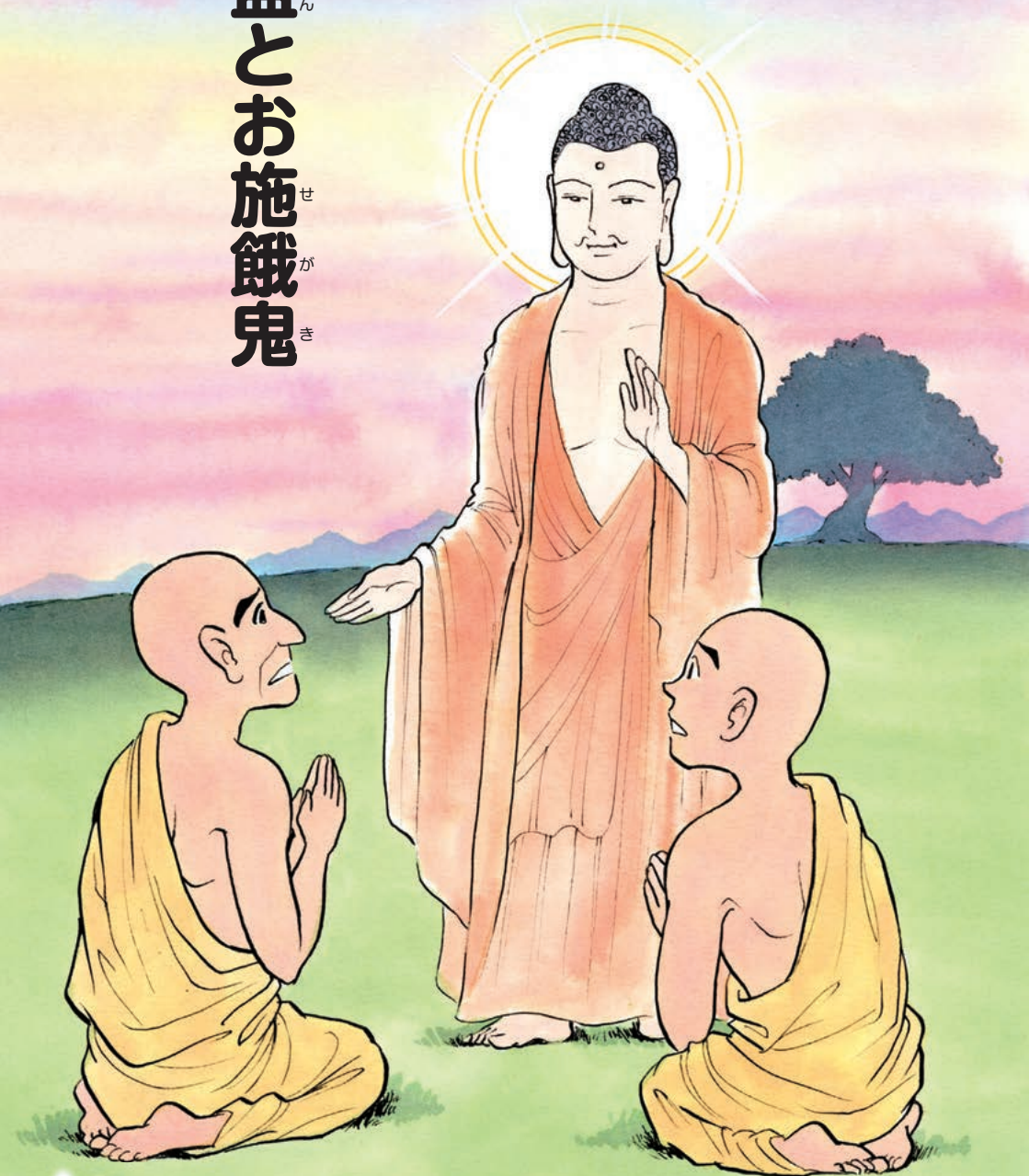
※檀信徒でない方もお受けいただけますので、
ぜひご参詣ください。当日申込も可。



中国（福 山）	… 7月15日（日）
関東（東 京）	… 7月21日（土）
東海（名古屋）	… 7月22日（日）
関西（大 阪）	… 7月29日（日）

※お問い合わせは最寄りの支院・布教所まで

お盆とお施餓鬼^{ぼん せ が き}



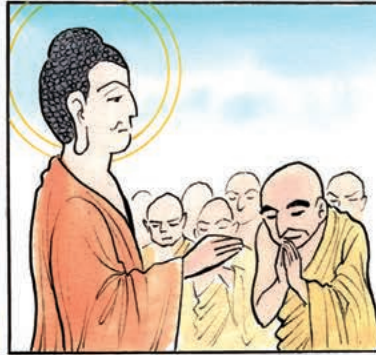


お盆のお話

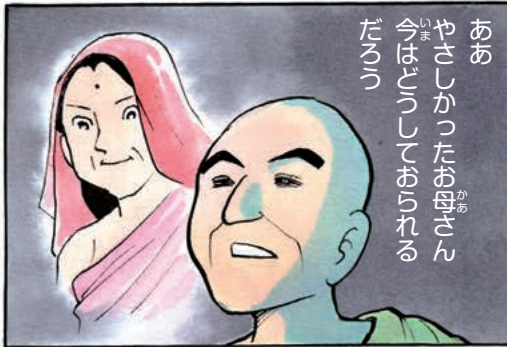
はなし
もくれんそんじや
はは
一目連尊者とその母一



ちくれんそんじや
目連尊者は修行を
重ね 神通力を
得られました



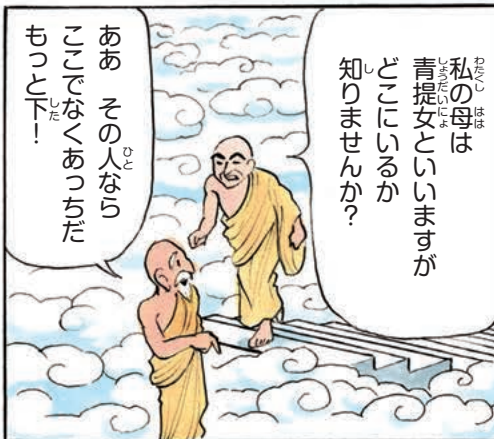
お釈迦さまの
お弟子の一人に
ちくれんそんじや
目連尊者という方が
いらっしやいました



ああ
やさしかったお母さん
今はどうしておられる
だろう



目連尊者には
やさしい母親がいました
が
何年も前に
亡くなっておりまし

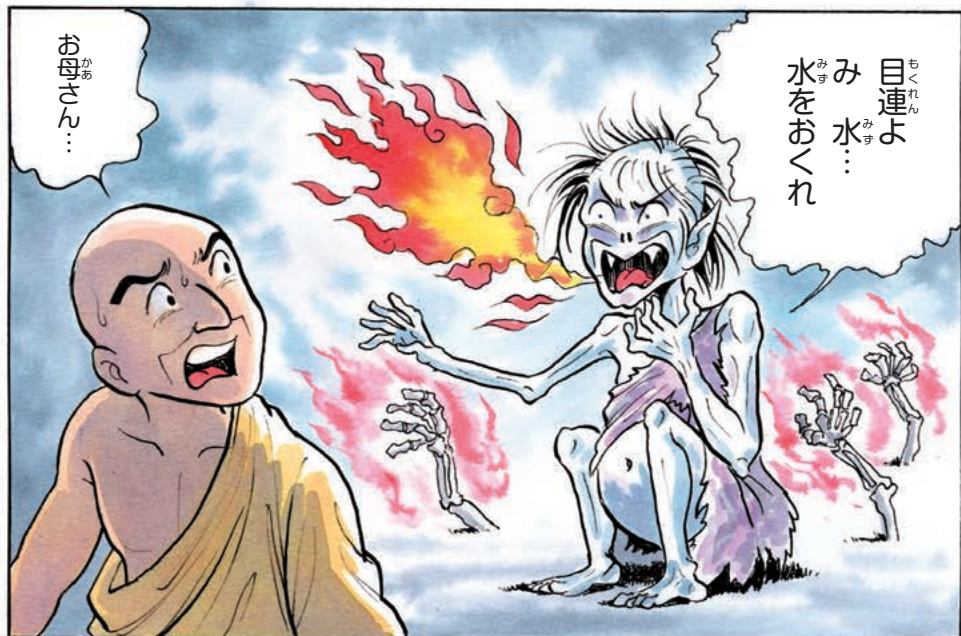


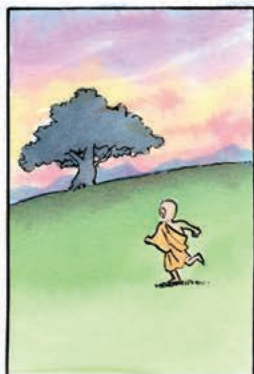
私の母は
青提女といいますが
どこにいるか
知りませんか？

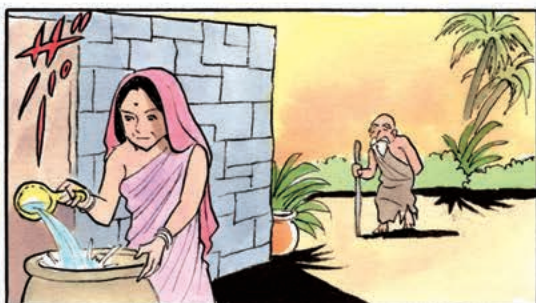
ああ その人なら
ここであつた
もつと下！



よし
神通力の
天眼を使つて
会いにいって
みよう





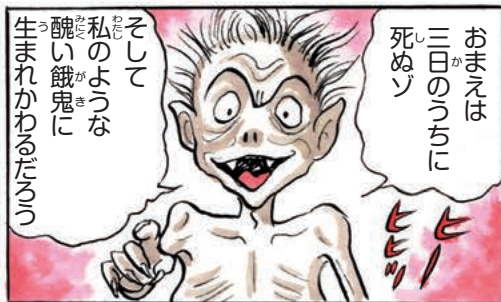






お施餓鬼のお話

— 阿難尊者の因縁 —



阿難尊者は
お釈迦さまに言われた通り
餓鬼界で苦しむ多くの人々に
食べものを施しました

その功德によって
寿命を延ばすことが
できました



目連尊者よ
私は施しをしていて
気がつきました

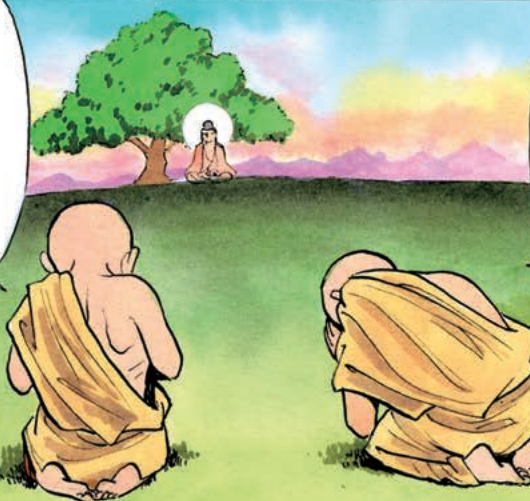
あの
醜い餓鬼は
私の心の中を
写したものだ

ああ 私も
食べものを分かち合う時
大きな安らぎが得られたよ



お釈迦さまは
私達に
物欲にまみれた醜い心を洗い
清らかにする手立てを
示してくださいましたのだ

布施行をもって
ご供養の大切さを
教えてくださったのだ



おわり

孟蘭盆会・施餓鬼供養とは…

孟蘭盆はご先祖さまへ、施餓鬼はご縁のあつた方々への追善供養です。

日蓮聖人のお手紙 ①〔四条金吾に宛てたお手紙〕

…そもそも孟蘭盆というのは、目連尊者の母・青提女しょうだいによが施しをせず貪ったことによつて五百回生まれ変わる間、餓鬼道に堕ちたのを目連尊者が救つたことから起つたのです。しかしながらその時は目連自身が、法華經の行者でなかつたために母を成仏させるまでには至りませんでした。その後、目連は靈山りやうぜんで八年、法華經を学ぶとともにその教えを守り、南無妙法蓮華經と唱えることで多摩羅跋栴檀香仏たまらばつせんたんかうぶつという仏になり、この時母も成仏しました。

また、（あなたからの）お手紙には施餓鬼のことを書いておられますが、法華經第三卷・授記品きほん第六には「飢饉きげんの国から来て、いきなり大王の膳に遇うようなもの」とあります。この文は、〃四大弟子がそれまで（最も美味であり妙薬ともされる）醍醐だいごの存在さえ知らなかつたのが、法華經に出会つて始めてその味を飽きるほどなめ、それまでの心の飢えがたちまちにおさまった」と説いています。それゆえ餓鬼供養の時には、この文を誦して南無妙法蓮華經と唱えて弔うべきです。

日蓮聖人のお手紙② 「治部房日位の祖母に宛てたお手紙」

…結局のところ、目連尊者が母を仏に導くことができなかったのは、自分自身がまだ仏になつていなかったからです。自らが仏にならずして父母を救うことができるでしょうか。ましてや他人においてはなおさらです。

ところが、目連尊者は法華經方便品第二の中で、「正直に方便を捨てよ」と説かれた釈尊のみ教えを守り、それまで持っていた小乗の二百五十戒をたちどころに投げ捨て、「南無妙法蓮華經」と唱えることにより、多摩羅跋栴檀香たまらばつせんたんこうぼう仏という仏となりました。この時に目連尊者の父母も初めて仏になることができたのです。（略）目連尊者の肉体は父母から受け継いだものです。したがって子どもの目連尊者が仏になったので、父母の身もまた仏になることができたのです。

日蓮聖人は「法華經の教えを実行すると、自分が仏となり、同時に、父母・先祖も成仏しますよ」とおっしゃっているのです。回向とは、亡くなった方への徳の仕送りです。きちんと届くように、私達はお題目を唱え、「感謝と親切」を実行しましょう。

【仏教豆知識】…施餓鬼^{せがきばた}幟^{しゆ}にある言葉

「施餓鬼供養」の日にお寺に行くと

ご宝前に幟旗が立てられているのを目にします。

(左記写真参照)

それぞれの幟旗には

お経の言葉が書かれています。



如^に以^よ甘^い露^{かん}灑^ろ …… 甘露^{かんろ}を以^{もつ}てそそぐに

除^{じよ}熱^{ねつ}得^{のぞ}清^{しょう}涼^{りやう} …… 熱^{ねつ}を除^{のぞ}いて清涼^{しょうりやう}を得^うるがごとくならん

如^に從^よ飢^け国^{こく}来^{らい} …… 飢^うえたる国^{くに}より来^きたつて

忽^{こつ}遇^ぐ大^{だい}王^{おう}膳^{ぜん} …… たちまちに大^{だい}王^{おう}の膳^{ぜん}に遇^あわん

(妙法蓮華經授記品^{じゆきほん}第十八)

といのはの記

三徳開教百十年 特別企画
安立大法尼の教え

⑥

いちぶ はちけん

一分八間

「諸仏世尊は、

衆生をして仏知見を開かしめ清浄なることを得せしめ
んと欲するが故に、世に出現したもう。

衆生に仏知見を示さんと欲するが故に、世に出現した
もう。

衆生をして仏知見を悟らしめんと欲するが故に、世に
出現したもう。

衆生をして仏知見の道に入らしめんと欲するが故に、



世に出現したもう。

舍利弗、是れを諸仏は唯一大事の因縁を以ての故に、
世に出現したもうとなづく」（法華經方便品）

これを読むと、法華經の「開・示・悟・入」というお
仕事は、釈尊をはじめとする諸仏のなすべきことのように
に思われる方があるかもしれません。

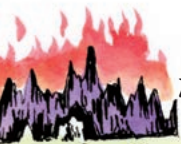
法華經は「諸仏の眼目（最も重要なもの）」と言われ
ていますが、実は仏には必要ありません。なぜなら、法
華經は仏になる修行方法が書いてあるからです。つまり、
その修行をした結果、仏になった方には必要ないものな



のです。法華経は、いまだに煩惱を断ち切れない人、完全な修養ができず、財を求め、世の享樂に執着している人、悩みに縛られて地獄・餓鬼・畜生の苦しみに遭っている人のためにこそ必要な教えであることを知らなければなりません。

「法華経を読誦することが仏さまへのご供養だ」と思っている人がいます。単に法華経を読誦しさえすればよいわけではありません。読誦することによって、自分の魂に法華経を理解させなければならぬのです。

「一分八間」(*)と言われますように、仏さまと自分の間に大きな隔たりができては、自分は極樂へ行くつもりだ



ったのに、実は行き先は地獄だったということになりかねません。

鏡は、^ミ姿を写す^ミということについては何の偽りもなく写すものですが、鏡の裏に向かっていては、何万年の歳月を経ても自分の姿は写りません。それと同じで、法華経の「開・示・悟・入」も、仏さまのお仕事だと思っていたら何万年経っても法華経の意味はわかりません。この一大事は私達がともになさねばならぬことで、自分が実行すべきことだと思って法華経を読誦しましょう。

※「二分八間」…もともと弓道の言葉で、^ミ手先の一分の狂いが的に届くときは八間もずれてしまう^ミということ。



のりのね体験

いま・昔

妙法の利益

東築地 佐藤 栄治（昭和13年8月 樹徳32号）

一昨年の二月七日のことでした。私は工場の高い所に上って、四、五人の仲間と一緒に大きな機械の分解をしておりました。その時、突然上から大きな角材が落ちてきました。ッアッという間に私の体を斜めにかすめて、その角材の先端が私の足の甲に落ちました。あわや私はその場に倒れるところを、心を強めて夢中で高い梯子を降りてきました。痛むのを忍んで約一丁程も走ったでしょうか、無我夢中でした。立ち止まって足袋を脱いでみると、足の指三本と、甲の外側の方がひどくやられていることがわかりました。仲間に助けてもらい、早速救急室で応急手当てを受けました。そのうち自動車と呼ばれ、それに乗って町医のもとへ走りました。打った箇所をレントゲンで見た医師は、指が二本と足の甲が砕けていると申しました。私は少なからず落胆しました。医師は二、三週間自動車で通うよう、その証明を書いてくれました。その夜は痛みがますます激しく加わるばかりで、一夜まんじりともせず明かしました。翌朝、会社から人をつけて自動車を廻してもらい、その自動車で医師のもとへまいりました。

その翌日の夜でした。築港の服部秀次郎さんと杉本政太郎先生が連れ立ってきてくださいました。その夜は服部さんの講日で、私の妻がそちらの方へ参っていたのでした。私の妻は、私がかかりそめにも妙法の修養にたずさわっている身でありながら、前後を忘れ、ただ周囲の人々の言うがまま、為すがままに任せ、少しも悟りができていないのを、平素の信条と一致しないという面持ちをしていましたから、そんな私のことを逐一話したものとみえます。そのため先生はわざわざ遠いところを回り道して来てくださいましたので、実にありがたいと思いました。しかし、先生は開口一番、強く言い放たれました。

「貴方はまだ妙法の真理がおわかりでない。貴方が好いことのように思っていることが私には皆貪りに思えます。常日頃、私どもが貴方のお宅へお邪魔に上がり、お話をさせていただくのも、こうしたことのないようにとのためです。どうか広い心になって、平素貴方が会社にお出かけの時のことを反省してみてください。きっと、善き行い、思いやりの心、施しの心が不足していると思われる。また、真の堪忍も必ずや欠けているに相違ないと思います。そのことの反省の誓いができれば、かならず怪我も癒え、歩行もできると思います」と、誠に厳しいお訓でした。

そう言われて私は初めて己の非を知りました。私の会社での行いは全く先生の申される如く、何一つ修養に適ったものではありませんでした。怪我をした日、その仕事が私には一番苦手で厭でならなかったものですから、愚痴不足が充満しておったのです。

全く怪我するのも無理からぬことに思い、心から懺悔をし、お誓いを立てました。そうして私が先生のお話を承り、悟りましたら、痛みがだんだん薄らいでいくのがよくわかりました。

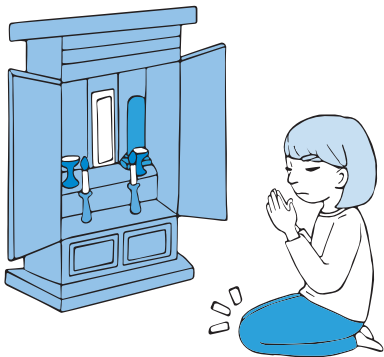
唱題行の功德について

大阪支院 薫田 さつゑ（平成29年 信教師会報第48号）

30年程前、私は石段を2、3段踏み外して、右膝をひどく打ったことがありました。それから膝が痛くなり正座ができなくなりました。毎日お仏壇の前で右足を投げ出して読経していましたが、もちろん前膝あたりは、白い大きいハンカチをかけているのでこれで良いと思っていましたが、2、3日過ぎた頃に自分の姿を見て思いました。私は今、お仏壇の前に座って「勧請し奉る南無輪圓具足未曾有大曼荼羅御本尊 別しては南無久遠實成大恩教主本師釈迦牟尼佛 宗門歴代の先師先哲 廣宣院殿安立大法尼 弘教院殿宗玄大徳 御開山泰山院日進上人等 来到道場知見照覧御法味納受」と先師の方々を勧請し奉り、このお仏壇から御照覧いただいています。ここにお釈迦さま、諸天善神がお出でくださり、見苦しい私の姿をご覧になっておられます。「申し訳ありません。今日から今月いっぱい、一日一万遍の唱題行をさせていただきますので、ご宝前で正座ができますように、何卒仏さま、お願いいたします」と私はお誓いをさせていただき、その日から一日一万遍の唱題行を始めました。

大阪支院での法座や信者さんの家の法座参りに行く時に、家から駅までの間、唱題して歩きました。また、福井へ法座の当番として行く時には、大阪から電車で2時間の道中、ずっと唱題ができるのです。ちょうど一万遍の唱題が終わった時が、福井の駅でした。その夜は、福井の稲田さん宅で法座があり、泊めていただきました。翌朝も法座や座談会をさせていただき、帰阪する電車の中でも唱え続けておりました。帰宅後、我が家のお仏壇の前に座り「ただ今、戻りました。ありがとうございます」と言って合掌しておりますと、気がつけば私は正座をしていました。「あれ、仏さまありがとうございます。正座ができました」と仏さまにお礼を申し上げました。

それ以後今日まで、普通に正座のできる生活をさせていただいています。後日『妙法蓮華経略義』の方便品のところを見ましたら、「請願することがあれば、3・7日の間の誓願が良い」と書いてありました。私は、たまたまですが「今日から今月いっぱいまで唱題行をします」とお誓いしましたが、後から日数を数えたらちょうど21日間でした。不思議な気がいたしましたが、これも仏さまのお計らいであったのかとうれしく、もったいない気持ちでした。お仏壇の前の正座だけでなく、日常生活も立ったり座ったり、自由に喜んで暮らしています。これからも唱題行を続けていきます。



福祉に 生きる

特集

第10回

社会福祉法人昭徳会

福祉実践発表会

◇◇ 昭徳会・障がい者福祉の実践発表 ◇◇

◆障がい児入所施設 小原学園

叩け、響け、僕らの音色——太鼓で心を二つに——
法人内施設・地域行事に積極的に演奏活動を展開く

課長（児童発達支援管理責任者） 小川 理

小原学園は平成17年に三好から小原に移転したことに伴い、高等部の利用者は三好特別支援学校の本校に通い、小中学部の利用者は小原学園に隣接した施設内学級に通うことになりました。その際、施設内学級教員の授業で太鼓を教えたいという思いから、学級での太鼓の授業が始まりました。太鼓は三好時代から集めていたベルマークで購入しました。

授業を通じて太鼓を叩く楽しさを感じた利用者さんは、積極的に取り組み始め、年々、太鼓演奏の技術も向上。演奏会を通じて小原学園と言えば和太鼓と地域の方々にも思っていただけのようになり、太鼓演奏の依頼が増えました。そのため、施設内学級の授業での取り組みだけでは対応がむずかしくなり、平成22年度から小原学園で練習を含め外部での演奏を担うことになりました。

毎年、入退所により入れ替わる利用者さんの中から



太鼓メンバーを確保すると同時に、練習時間を設ける必要もあり、平成23年、新たに太鼓クラブを結成し、多くの利用者さんが太鼓にふれる機会を設けました。結果、これまで太鼓にふれたことのない利用者さんが興味や関心を抱き、太鼓クラブに参加してくれるようになり、人が入れ替わってもメンバーの確保ができるようになりました。

一方、指導ができる支援者がいないことで演奏技術の維持、向上、太鼓への意欲の低下が課題として挙げられました。そこで、支援者も太鼓クラブや施設内学級の授業に参加。地域の太鼓チームへ出向き指導を受けたり、退園利用者さんやボランティアの方が来園した際に笛や基礎打ちなどを教わりました。このように指導者育成を進め、支援者が直接指導できるようにしました。

外部での太鼓演奏を始めた平成18年以降、太鼓を叩く環境が整ってきたことで、今では法人内外のいろいろなところから演奏依頼をいただくようになりました。演奏会に向けて、「もっと上手になりたい」など向上心を持ち、他の人と協力し、より意欲的に練習に励む利用者さんの姿も見られるようになってきています。

太鼓演奏を通じて、普段の生活だけでは得られないような効果が見られ、小原学園にとって太鼓は大切なものになっていると強く感じています。これからも小原学園の太鼓演奏を多くの方に届けていきたいと思えます。

◆障がい者支援施設 泰山寮

泰山寮がニューオープンしました！ ～変化が苦手な方達の立場に立った支援～

生活支援員 園田 奈緒子

昨年の10月、泰山寮は約30年以上にわたって住み慣れた施設を離れ、新施設へ引越しを行いました。引越しという大きな環境の変化は、私達が想像するよりも利用者さんにとって大きな不安やストレスとなります。泰山寮の利用者さんは、自閉症という障がいがあります。それぞれ言葉の理解や伝達が苦手が必要な情報 that 得られなかったり、行動パターンや物の配置などにご本人だけの特別なこだわりがあったりするため、環境の変化によってさまざまな困難が生じる場合があります。

ます。

そこで泰山寮の職員は、普段から利用者さんそれぞれが持つ自閉症の障がい特性を理解し、言葉を発することができない利用者さんの行動の理由について考えることで、安心して生活を送れるように努めてきました。

そして今回、引越しによって環境が大きく変化するため、新たに支援を検討していくことにしました。引越し前は、事前に新施設の見学を行ったり、引越しを行う日をお知らせすることで、突然の出来事によって利用者さんの不安やストレスが増えることのないように支援しました。また、新しい施設では、どこに何があるのか、ここが何をやる場所であるのかがわからないので、利用者さんが理解しやすいように、目で見てわかるような写真やイラストを提示しました。

それでも、引越しの当日は、前の施設に帰りたがる利用者さんや、全く知らない場所に来たことで、その場から動けなくなってしまう人が何人かいらっしゃいました。しかし、事前に準備をしていたこともあり、大きな事故や怪我もなく、利用者さん全員が無事に引越しをすることができました。

また、新施設では、利

用者さんの居室がすべて個室になりました。これまでは、個室がないため集団生活によってさまざまなストレスが生じる上、プライバシーが守られていなかった部分がありました。個室になってからは、利用者さんだけの専用空間ができ、それぞれの好みに合わせてテレビや音楽プレーヤーなどを置いたり、以前と同じような配置で家具を置くことで、新しい環境でもすぐに馴染めるように工夫を行いました。その結果、利用者さんが以前よりも落ち着いて過ごせるようになり、夜よく眠れるようになったといった良い結果が生まれています。引越しが完了し、現在では新しい生活にも慣れてきている様子がみられます。今までと同様に、健康維持のための散歩はもちろんのこと、旧生活棟や旧食堂をリフォームした作業場所も完成し、新しい日課も順調



に進めています。そして、日課とともに、利用者さんの好きなことや得意なことを活かした個別の内容も検討していくことで、利用者さんにとってより質の高い生活の提供をめざしていきたいと思っています。

◆障がい福祉サービス事業 授産所高浜安立

ココロつながるプロジェクト

～地域で豊かに暮らすために～

職業指導員 竹本 有希

もし、生まれた子どもに障がいがあったらどのような生活をしていくのだろうと考えたことがありますか？障がいのない子どもは、大人になると社会人として仕事をし、社会と関わりながら生活をします。つまり、親から巣立って自立をしている方がほとんどです。しかし、障がいを持つ子どもはそうではない場合が多く、自立して暮らすことさえむずかしい現状があります。障がい福祉事業所で利用者さんにお支払いをしている工賃の全国平均は1万5千円です。それに障がい者年金の約6万円を加算しても、月平均8万円の資金で生

活しなければなりません。この現状では、障がいを持つ方達は、家族のサポートがないと地域で暮らしていくことはむずかしいのです。

授産所高浜安立では地域の協力者の方々とともに、障がいのある方が生きていく時に不安材料となる自立した社会生活の課題を踏まえ、社会の中での居場所を整えることで、障がいを持つ方とご家族が前向きなココロで将来を見つめていただけるような、自立支援の仕組みづくりのために「ココロつながるプロジェクト」を立ち上げました。

ココロつながるプロジェクトのめざすところは、障がい者施設への作業の提供と商品販売のネットワークを作ることで、障がい者の自立を継続的に支援していく仕組みを作り上げることです。高浜市内の銭湯の協力のもと、温浴施設のタオルとカレンダーを作成し、利用者さんには新たな作業の提供をしました。利用者さんの様子を多くの方が見に来てくれたお陰で新しくつながりもでき、伝統工芸である有松鳴海絞をアレンジした染物体験などを月に一度行いました。そこでできた作品は、授産所高浜安立の自社製品「ぱりまる」と連携させ、新しい商品作りも行いました。それにより

少しずつではありますが利用者さんの作業量が増え、やりがいの向上につながっています。しかし、まだ目に見える形での工賃向上は叶っていません。授産所高浜安立の利用者さんが地域の中で豊かな暮らしができるように、これからも努力していきたいと思っています。

今年の9月で20周年を迎える授産所高浜安立ですが、まだまだ地域にその存在が知られていません。それは、障がいを持った方にとつての生活サポーターが地域にまだまだ少ないということであり、施設の課題の一つです。施設が地域に出て

いかなければ、地域の方は受け入れがむずかしく、何をしている所かわかりにくいようです。地域福祉の実現には地域の力が試されます。地域全体で障がいを持つ方の生活全般を支えていくことが必要なのです。「ココロつながプロジェクト」を通じて、公的サービスにとど



まらない生活サポーター作りに貢献し、地域に目を向け、地域からの役割を理解し、地域のために尽くしていきたいと思っています。

◆障がい福祉サービス事業 グループホームさくや グループホームさくやの挑戦

「地域に向けて一歩踏み出そう」

グループリーダー（世話人） 竹田 慶介

今、私達の暮らしを支える、福祉のあり方を見つめ直そうという動きが進んでいます。国が福祉改革の理念として挙げるのは「地域共生社会の実現」です。障がい分野についても、平成28年に「障がい者差別解消法」が成立し、障がいがある人も、ない人も、住みやすい社会が求められています。そんな中、平成27年4月にグループホームさくやが開所しました。

家庭的な雰囲気大切に、一般の戸建て住居のような設計で、男性4名・女性5名の計9名が住むアットホームな事業所です。私達の暮らす小原地区は、大変な人口減に悩まされているのですが、反面、地元役員

が住民を精査している状況もあり、知的に障がいがある方を受け入れるには少しばかり抵抗があると、想像が付きましました。事業開始1年前に住民説明会を実施すると、「交通事故に巻き込まれないか心配」「子どもに危害を加えないか心配」との意見をいただき、とても重苦しい雰囲気になったのを憶えています。まずは、利用者さんのことを知ってもらい、安心感を持つってもらうことが先決だと考えました。

この地域には、親睦行事、神事がたくさんあります。とにかく出席率が高く、そこに行けば、皆さん顔を合わせるができます。これらに継続的に参加することで、顔を徐々に覚えていただけるようになりましたが、まだまだ地域の一員としてではなく、お客さまのような扱いでした。そこでさくやとして、地域に貢献できることはないかと考え、メインストリートにある、荒れた花壇を整備して、季節の花を植え、地域美化に貢献しました。またこの地域は、過疎化、高齢化による現役世代の減少が著しく、地域イベントや神事の準備、運営が困難になってきている悩みを抱えています。利用者さん・スタッフが一丸となって、協働しました。そのあたりから、地域の方に興味を持っていただけ

ようになり、自然と会話や交流が生まれるようになりました。

そういつた活動を続けるうちに、地域から仕事の依頼も来るようになりました。事業開始当初は、少し心配している様子もありましたが、利用者さんの人となりを知ってもらうことで、距離がぐっと近づきました。共生というには言いすぎかもしれませんが、ふれあいの中で、障がいがあっても自然なお付き合いができるということを知っていただきました。さまざまな取り組みを経て、気づいたことは、関係が進展する中でこそ、利用者さんのことを理解し、わかってもらう気持ちになってくれるということです。

地域の中で生き生きと暮らす利用者さんを見て「グループホームを開所して良かった」と心から思っています。

(写真提供・昭徳会)



永年勤続褒賞授与式を挙行



写真提供・昭徳会

社会福祉法人 昭徳会
～勤続10年から30年までの職員43名に授与、資格取得助成を8名の職員に授与～

平成30年6月1日、法音寺本堂にて永年勤続褒賞授与式が行われました。鈴木正修理事長（法音寺・山首上人）がご挨拶の中で「この永年勤続褒賞というものは、ただ単に長く昭徳会に在籍されているということを讃えるものではありません。それだけの期間を昭徳会とともに歩み、その屋台骨を支え、あるいは事業発展の原動力となり、なお今日の昭徳会の発展に貢献されているからこそ、褒賞に値するのであります。今後とも職員の皆さまが健康に留意され、さらなる活躍をされるよう、心から期待しております」と述べられ、勤続10年から30年までの職員43名に褒賞が授与されました。

勤続30年になる中村範親高浜安立荘長が代表謝辞の中で「私は昭和63年4月に採用されました。この年は昭和最後の年となりました。来年

度の永年勤続褒賞は、「平成」として最初の採用職員になります。そして来年5月には元号が変わる予定ですので、この表彰式が平成としては最後となります。3つの元号にわたって勤務することになる状況を鑑みると、時代の移り変わりとともに感慨深いものを感じます。

また、私が好きな言葉にダーウィンの一節『最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるのでもない。唯一生き残るのは変化できるものである』があります。これからも昭徳会の歴史を継承しつつ、新しいことにチャレンジする精神をなくさず、決して変化を恐れず、さらに精進してまいる所存です」と決意を述べられました。

今年度の永年勤続褒賞授与者の人数は、過去最多となりました。

当日は職員の資格取得を表彰する資格取得助成金授与式も同時に開催され、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、それぞれの資格を取得した8名の職員に表彰状と助成金が授与されました。働きながら勉強し、資格を取得することは、容易なことではありません。このように、日々努力に励む職員の方々により、利用者の方へのサービスの質も向上しています。

授与式の後、会場を法音寺会議室に移し、鈴木正修理事長と歓談しながら、楽しい昼食会が行われました。授与者全員より、これまで勤めてこられたのも、職場の皆さま、家族など、多くの方の支えがあったからであると、感謝の言葉が述べられ、昼食会を終えました。

法人本部事務局 人事課長 額額純司

福祉のひろば

児童養護施設の現場から

「親への思い…生い立ちの整理…」

子どもが過去に起こった出来事や家族のことを理解し、自分の生い立ちやそれに対する感情を信頼できる大人とともに整理する一連の作業を、『ライフ・ストーリー・ワーク』と言います。作業を通じての影響としては、子どもが自らの生い立ちを肯定的に捉えられるようになること、支援者が子どものことを考え、悩み、成長する、自立支援の見通しを立てること等が挙げられます。児童養護施設で暮らす子ども達の中には、「なぜ自分が施設で暮らさないといけないのか」「自分が何か悪いことをしたからだろうか」といった不安や思いを抱えながら暮らしている子もいます。そういった子どもに対しては、過去の出来事を一緒に整理すること、子どもの安心感につながるがあります。一方で、家族内で起きている出来事が複雑であったり、結果として子どもに「あなただけが家族から排除され

た」という事実と向き合わせるようになったりすることもあるため、子どもの状況を勘案しながら取り組む必要があります。

—子どもに事実を伝える—

4歳から施設で暮らしているYさん。保護者の所在についてきちんとした説明を受けないまま、中学生になりました。次第に親の存在を気にしていることに気づいた担当職員が、Yさんにこれまでの生活や人生について一緒に考える時間を持つことを提案してみました。Yさんは最初乗り気ではない様子でしたが、担当職員と一緒に取り組むこととなりました。「私の家族について」を考えると、Yさんは担当職員から母親の居場所を伝えられることとなりました。担当職員は、Yさんがどのようにそのことを受け止めるか不安な面

もありましたが、伝えたことで、自分の親がいることがわかり、これまでより落ち着いた生活をする事ができるようになりました。

施設で暮らす子ども達は、その子が何歳くらいから生活を始めたかによって、自分の育ちについて理解している子としていない子に分かれます。一定程度の年齢が過ぎてから施設で暮らすことになった子どもは、自分が家庭等から施設へ生活の場を移さなくてはいけなくなった理由を把握していることもあります。但し、いつも正しい理解をしているとは限りません。その一方で、乳幼児期から施設で生活をしている子どもは、気がついたら、ここ（施設）で暮らしていたということも多く、小学校等に進学し、家庭で実の親と暮らしている子ども達と出会うことで、初めて自分の置かれている状況に疑問を感じるようになります。そういった子どもが思春期を迎える頃になると、自分の育ちがわからないことによる不安や悩みを抱えるようになることがあります。

AさんとRさんの兄弟は、母親が一人での子育てに行き詰まったため施設入所となりました。本人達は知

りませんでした。それぞれの父親が違っていましたが、二人にライフ・ストーリー・ワークを行うプロセスで、実は父親が違うことを伝えることとなりました。兄弟にそのことを伝えたところ、「やっぱり」という反応がありました。子ども達も母親との生活やその後の状況を鑑みるに、うすうす感じていたことでした。AさんとRさんは、この事実を知ったことで「Aちゃん」という会話が自然に交わされるようになりました。

子どもは成長する中で、自分の育ちや兄弟の関係について疑問を持つことがあります。「兄弟」というのも、施設で暮らす子ども達の中には、それが血縁そのものにつながらないこともあります。こういった子ども達の疑問に答えていくことも、ライフ・ストーリー・ワークの大切な役割となっていくと思います。また、子どもが事実を知ることがすべてマイナスにつながるわけではありません。子どもにとって大切なのは、事実を受け止める場と支える人がいることといえます。

＊出典：「社会的養護内容」（ミネルヴァ書房）

新入生、「建学の精神」を学ぶ

日本福祉大学付属高等学校

日本福祉大学付属高等学校 教諭 松永 太志



今年度も本学の学園長である鈴木正修先生より、新入生全員に『日本の福祉を築いたお坊さん』を戴きました。また、「福祉をグローバルな視点でとらえ、探究力・行動力・未来を切り拓く力を育てよう」と新しく設定された科目「Global FUKUSHI Studies」において、正修先生より鈴木修学先生の行われた教育および「建学の精神」についてお話しいただきました。

高校生活が始まって2カ月がたち、新しい暮らしの中で自分の目標を掲げ、生徒達は日々懸命に学習に、部活動に取り組んでいます。鈴木修学先生の一生から大いに学び、生徒が修学先生の思いを引き継ぎながら、自分を成長させていくことを期待しています。

杉山先生の言葉

A組 岩田 隼八

私がこの本を読んで感じたことは、杉山先生の言うことがとても深いことと、それを行動に移すことができる修学先生の行動力です。

杉山先生が教えることはとても深く、それを考えていると自分にはたどり着きませんでした。それを特に感じたのは、修学先生が「功德を積むとは、一体どういうことなのでしょう。どのようなことをすれば功德を積むことができるのでしょうか」と質問をされたときの杉山先生の答えです。それは「困っている人を助け、法華経を信仰する善人を作ることです。自分のできることで、立場を通して、仕事を通して人の喜ぶことをして導くのです」という言葉でした。自分も何をしたら功德を積むことができるのか考えてみましたが、全然答えが見つかりませんでした。

しかし、この杉山先生の答えを見てハッとさせられました。これを今の自分に当てはめてみると、困っている人を助けて自分を応援してくれる人達を増やして、その中で自分のできることを探して、自分を応援してくれている人達を喜ばせることで功德を積むことになるのかなと思いました。

私はサッカー部に所属しています。サッカー部には、いろいろな人に応援されるチームになるという目標があります。この杉山先生の言葉は、私達にとっても大切な言葉だ

と思います。人に応援される、味方になってくれる人を作るには、自分達でできることを探して、人のために動ける人間になって、その応援してくれる人達を最後は結果で喜ばせられるような人間、チームになることなのではないかなと思います。

この本の中には自分について改めて考えさせられる杉山先生や修学先生の言葉がたくさん書かれています。この言葉を心にとめておいて杉山先生と修学先生のように尊敬される人間になれるよう高校生活を頑張りたいと思います。

自分が今後めざす姿

A組 岩松 みさと

「自分は何のために生まれてきたんだろう」、私はこの言葉に強く衝撃を受けました。私はまだ自分が何のために生まれてきたのかはわかりません。ですが、この本を読み、今回の講義を聞いたことで、少しですが自分が今後何をしていくべきなのか考えることができました。私はこの本を読み、大きく分けて二つのことを学びました。

一つ目は、先のことを恐れず、今目の前で問題とされていることを解決しようとする修学先生のすごさです。たとえば、学級の中でいじめのような問題があった場合、私は後で自分が責められることを恐れ、見て見ぬふりをしてしまおうと思います。ところが、当時の修学先生は、ハンセン

手を差し伸べる人

A組 長谷川 詩月

病で社会的に差別を受けていた人達に、周りからの批判を受けることを恐れずに手を差し伸べていたのです。そのような状況に立たされたら、私は周りに合わせ差別をしてしまいう側だったと思います。今こうして修学先生のように強く生きていた人のことを知り、私も周りを恐れず、子どもや高齢者など立場の弱い人の味方になれるような大人になりたいです。

二つ目は、周りの人から信頼されることで生まれる周りを動かす力についてです。修学先生は誰にでも優しく、自分の意見を持ち、自分を犠牲にしても立場の弱い人を守ろうとしていたために、周りから信頼されていたのだと思います。そして、その信頼があったからこそ、今日日本に「福祉」という言葉を残すことができたのだと思います。

修学先生が亡くなられた後にも、大学を支えてもらえたことができたのは、修学先生を信頼し、尊敬をしていた人々がいたからだと思います。私も周りから信頼されるような大人になりたいです。

今回の講義をお聴きし、今後は私も修学先生のように先のことを恐れず、自分の考えを持ち続けていき、大人になったときに周りの人から信頼されるような人になりたいです。

今回『日本の福祉を築いたお坊さん』の本を読んだり、学園長先生の講義を聴いて思ったことがあります。それは世界には二つのタイプの人間がいるということです。

一つ目は、この学園を創設した鈴木修学先生のように、貧しい人や病気で苦しんでいる人、親のいない子どもなどの社会的な立場が弱い人のことを自分の幸せなんて考えずに手を差し伸べて寄り添う人です。二つ目は、社会的な立場が弱い人を差別したり、偏見を持ったり笑ったりする人です。一つ目のような人は、苦しい時期があると思います。

実際に本の中でも鈴木修学先生は、罪を犯した少年の食料を作るために荒れていた広い土地を畑にしたり、お金が足りないからと自分の宝物を売ってハンセン病患者のために使ったりしていました。その他にも、苦しんでいる人のために本当にたくさんの方の苦勞をしていました。私も、修学先生が創設した日本福祉大学の付属高校に入ったからには、困っている人や苦しんでいる人がいたら迷わずに手を差し伸べられる人になりたいです。

またこの本を読んで、リーダーのあり方についても学びました。鈴木修学先生は、先頭に立っているにもかかわらず偉そうにしたり、叱ったりすることはなく、自分から動き、自ら手本となっていました。何かやってほしいことや

協力してほしいこと、実現したいことがあるのなら、口で言うだけでなく、まずは自らが率先して動くことがとても大切なことだと思えます。一生懸命に動くリーダーの姿を見て、人はついてくるのだと思いました。

これからは、周りの人を大切に、どんな人にも手を差し伸べ、自分の考えをしつかりと持ち自分から動く、芯の通った優しい人になれるように心掛けて生活をしようと思いました。

鈴木修学先生の生き方を学んで思ったこと

B組 田島 与愛

まずこの本を読んで思ったことは、鈴木修学先生は今の日本の土台となった人だと思いました。そして、人を信じたり、良いところを見つけることの大切さを学びました。杉山先生の「死んだら家もお金も持っていくことはできないけど死んで持っていくのは徳だけ」という言葉にも、

なるほどと思いました。生きている時にただひたすらお金のために生きてどれだけお金に困らない生活をしたとしても、それは死んだら置いていくことしかできません。しかし、人に良いことをした時のうれしさや達成感を持つていくことができる、ということを学びました。いつ死んでも後悔のない生き方をして、また周りの人に良いことをしたり、周りに影響を与えることができる人になれば、きつと

周りにいた人が覚えていてくれるのではないのかなと思いました。

また、戦後に子どもに相撲を誘ったら「お腹がすくからやらない」と言われて辛かったという話が印象に残りました。きつと自分もお腹がすいているはずなのに相手に辛い思いをさせている、という考え方にとても感動しました。それに自分の本当の子どもではないのに自分の子のように思いやり、自分を犠牲にしてまで大切に思う姿勢に本当に感動しました。一方で、ハンセン病の人がお祭りに行きたいと言っていた時に、「そんな服でいけるのか」と言ってしまったという話を読んで、修学先生も間違えたり悩んだり、辛いことを味わっていたということを知り、修学先生も初めから何でもできてすべてがうまくいったわけではないんだと思いました。少しずつ間違えたことを修正していくことでより良い関係が持てたり、人に信頼してもらえるのかなと思いました。

私もこれからの生活で人の良いところを見つれたり人に影響を与えられる人になりたいなと思います。また、修学先生もみつさんに支えてもらっていたからこそ人に何かができていたのではないかと思うので、私も人の支えになつたり、人に支えてもらっていることをあたりまえだと思わず、日々感謝し、その気持ちを生活面や態度で表すことをまずやってみようと思いました。

尊敬する修学先生

B組 小川 翔

本にはこの学校の創始者の鈴木修学先生は若いころから人生の意味を考えるようになったと書いてあり、自分は、まだ人生について考えたことは数少ないのですぐいいと思います。「あなたには、あなたでなければできない大切な役割があります」という言葉がとてもいい言葉だと思います。どれだけ嫌なことがあっても自分の人生には、他人には味わうことができない楽しさがあり、自分を大切に生きていかなないとダメだなと思いました。

また、「自分が幸せになるには、幸せの種をまかないといけない」と書いてあって、自分だけが幸せになったらそれは、本当の幸せじゃないなと思いました。これからは、幸せになりたいと思ったら人を助けたり相手が喜ぶことをしたいと思いました。

「明日死んでも後悔はない、不幸な人々を助け、人々を幸せに導くことに命を捧げなさい」という言葉も印象に残りました。自分はまだ人生15年くらいしか生きていませんが、これから先の人生は、自分で楽しんでいきたいと思っています。死ぬまでに自分がしたいことができるようになることを目標にしたいと思います。

最後に修学先生について学んで思ったことは、修学先生は、若い時から人に気を配ったり、人にも幸せの種をまこ

うと意識したりして、すばらしい方だということです。それに比べて自分は、人のことは後回しだったり、自分のことばかりになってしまっているの、これからは、周りの人を見て行動して人の手助けになることをして自分も偉い人になりたいと思いました。まだ自分は、本気で努力したことがないので修学先生のように勉強をはじめ、さまざまなことに対して努力して積極的に色々なことに取り組んでいきたいと思いました。本当に修学先生はすごい人だと本を読んで思いました。

私との違い

B組 天木 綾弥

「私とは全く違う人だ」。これが私が一番最初に思ったことです。鈴木修学先生は、自分を犠牲にしてまで、ほかの人のために何かをしていました。菓子パンを作り大きな成功を収めていたのに、その工場をやめてまで人のために働くなんて私ならきつとしないでしょう。また、ハンセン病の患者さんのためにも、善意をつくしており、今ならまだしも、当時は周りから差別的な目で見られていたと思います。私もきつと差別的な目で見たり、デタラメを信じていたと思います。そんな中、鈴木修学先生は、ハンセン病患者の人達のために努力していました。家族がいる中、時計を売ってまで、他人のために何かをしようだなんて考えら

れません。普通なら自分のことではないのはずです。すごいなと思いました。こんなに誰かのためにがんばろうとする人はそういません。

また戦争が終わり、身寄りのない子どもを鈴木修学先生は、寮に入れ、温かく見守っていました。私はこれが一番ありえないと思いました。終戦時は、食糧も全くなく、家がない人もいるとても貧しい時のはずです。他人のことなんて考えることができないはずです。そんな中でも子どものためにあんなにたくさんの方を助けるなんて考えられません。ましてや、物乞いやスリをする子ども達を説得してでも助けようとするなんて私にはできません。私は自然とではなく、努力をしないと人のために動くことはできないと思います。それでも、誰かのために、誰かが笑顔になれることをできたらいなと思います。鈴木修学先生が築いた日本福祉大学付属高等学校に入学したことが誇らしいです。

それぞれの人生

C組 石川 彩音

今回お話を聞いて一番心に残っているのは、人はそれぞれ幸せを感じるが違う、ということ。ハンセン病によって差別を受けている人達、親がいない子達など、世界には私とは全く違う人達がいることに気づかされました。

た。差別を受けたことによって、自殺をしようと考えた人に私は会ったことがないのでまわりにいたらと考えてみました。答えは出ませんでした。もちろん止めたいとは思いますが、止め方がわかりません。相手の気持ちを完全に理解することはできないですし、逆に怒らせたりして自殺に追い込んでしまうかもしれないからです。親のいない子や、36カ所の傷がある子、歯が折れた子、そのような人達が多くいた中で私がいたとしても何もできないと思います。そんな中、鈴木修学先生は、なるべく多くの人を助けようとたくさん動かれました。そんな行動や考え方を本当に尊敬します。

先生の話の中で一番驚いた言葉は、とにかく「ほめる」ということです。良いことした子とそれを見つけた子をほめる。あたりまえの行動をしたとしてもほめる。時には罰をと私は考えましたが、とにかくほめる。こんなにほめてばかりでいいのかと思いましたが、やはり人間誰でもほめられるとうれしいですし、次も頑張ろうという気持ちになれると聞いたときに納得しました。知的障がいによって言葉がわからない子でも、馬鹿にされているということやほめられていることはわかるといって驚きました。決して言葉が通じなかったとしても、気持ちは通じ合うことはできます。この言葉は自分の心にも響きました。ほめることで奇跡が起きる。何か嫌なことがあってもそれを良い方向へと持っていく。そうすれば自分の人生が良いものにな

ると思います。鈴木修学先生は、人生の中で多くの人達に影響を与えました。私も先生のように人々に影響を与えられるような人間になりたいと思います。

学園長先生の講義で学んだこと

C組 伊藤 菜央

私はこの講義を受けるまで日本福祉大学が鈴木修学先生のつくった学校とは知りませんでした。そしてどのようにつくられていったのかも全く知りませんでした。私は鈴木修学先生が色々なことを思いつくった福祉の学校で学べることが、とてもうれしくなりました。鈴木修学先生は大変な努力家で人のために動ける人だと思いました。常に誰かのことを思いついて自分を犠牲にしてまで尽くせる先生をとっても尊敬しています。特に講義の時に心に残ったのは、子どもへの向き合い方です。先生はあたりまえのことを「ほめる」ということをしていたと聞きました。だめなところではなく良いところを見つけてほめる。とにかくほめる。私はそれを聞いて自分のやってきたことが間違っていたことに気づきました。誰かのだめなところを見つけたら、私はすぐに注意をしてしまいます。しかし、それでは相手に伝わらないし嫌な気持ちにさせてしまいます。そうではなく、まずは良いところを見つけてほめる。とにかくほめることをする。ほめられると自信がついたり、やる気が出た

りなど、もっと伝わりやすくなります。私もそういったやり方をしていきたいと思いました。

鈴木修学先生の生き方を本で知って、私は見習いたいところや尊敬できるところがたくさんありました。それは日本の福祉に関わる人も関わらない人にも通じることがたくさんあると思います。私はまだ将来何になりたいとかやりたいことは明確には決まっていません。今から日本福祉大学付属高校で学んでいく上で先生の生き方や考え方、行動を参考にして高校でより福祉への関心を深めていきたいです。そしてまだわかりませんが、福祉に関わる仕事や将来大人になっても福祉に関わっていきたいと思うようになりました。これからは福祉への知識をより深めて将来につなげていきたいと思っています。

修学先生からの学び

C組 佐藤 千颯

まず、私がこの本を読んで感じたことは、初めに書いてあるこの言葉でした。「自分は幸せなのだろうか」「自分はこのまま年をとって死んでいくのだろうか」などと書いてあり、人生の意味を考えるようになったとのことでした。ちなみに私は自分が幸せなのかしつかりと考えたことはありません。そこで考えてみました。結論から言うところと幸せです。理由は二つあります。一つは学校に来ていること。二

つ目は、人と話すこと。どちらもあたりまえのことですが幸せなことだと思っています。

最近のニュースでは、理由はいろいろあるかもしれないですが、子どもに暴力ふるって怪我をさせたり、殺したりすることを聞くことがあります。ではどうすればいいのかと疑問に思い考えました。しかし、どの時代にも通じるかもしれないませんが、修学先生は当時、「子どもは体罰ではなく『ほめる』ことが良い」とおっしゃられました。私はそれを聞いて確かにと思いました。私も父や母にほめられると「次も頑張ろう」「絶対に勝つ」など勇気を持ったり、それが自信になったりすることがあります。「ほめる」という教育はとても良いことだと感じました。今回の講義と本から「福祉」について考え学ぶきっかけをもらったように感じました。

一つでも身につけていきたい：修学先生の心を

D組 岩田 みなみ

私の将来の夢は福祉に関する仕事に就くことです。そんな私がこの講義で多くのことを学び、本学の創始者である鈴木修学先生の考えに感動しました。まず、杉山先生がおっしゃっていた「功德を積む」という困っている人を助け、法華経を信仰する善人を作ること。「自分のできることで立場を通し、仕事を通して人の喜ぶことを導くのです」と

いう言葉から私は、今まで功德を積みながら生きてきたのか、私が今までどれだけの人を助けてきたり、支えてきたりできたのだろうか、と考えさせられました。そんな杉山先生の教えを鈴木修学先生はしっかり受け止め、生の松原のハンセン病療養所で杉山先生の姪に当たる方と一緒に、新婚にもかかわらず働いたり、特高警察による弾圧により、警察に連行されたりと波乱万丈の人生を送られました。

人のために尽くしてこられた鈴木修学先生がボロボロの姿で拘留先から出て来られたのを知ったときは、心を痛めました。こんな仕打ちを受けられたからこそ、その後の修学先生は、一人ひとりに思いやりをもって接し、尊重し、その人に合った支援をするというきめ細かいサポートをされたのだと思います。すばらしいです。

最後に一番印象に残っているのは杉山先生が遺された教えで「明日、死んでも後悔はないというまで徳を積みなさい。功德を積むこと。不幸な人を助け、人々を幸せに導くことに命を捧げなさい」という言葉です。これを実践することはなかなかできることではありませんが、自分がこれに少しでも近づいたような、似たような行動、言動ができるように日々努力を忘れず頑張りたいと思います。

杉山先生、修学先生の偉大さを感じて

D組 高井 綾菜

鈴木修学先生は、高校、大学創設者であるとともに社会福祉法人昭徳会の創立者であり、日蓮宗法音寺を創建されたすばらしい方だと感動しました。

「明日死んでも後悔はないというまで功德を積みなさい。死んで持っていくものは徳だけです。死んでしまったら、家も土地もあの世に持っていくことはできません。お金や名誉に執着してはなりません。煩惱の種を植えることに勤しんではなりません。この世に生を受けたからには、功德を積むこと、不幸な人々を助け、人々を幸せに導くことに命を捧げなさい」

杉山先生がおっしゃったように死んでしまったらそれから先、何もできないし、「持っていくたくても持っていくものは徳だけだ」というこの言葉に私は同じ考えだと感じました。私は、この杉山先生が遺した「不幸な人々を助け、人々を幸せに導くことに命を捧げなさい」という言葉を自分自身の肝に銘じて、これからの学校生活を頑張っていきたいと思います。

また学園長先生の講義で、ハンセン病というものを初めて知りました。ハンセン病にかかってしまうと指や鼻がとけたりする症状が出て、容姿が変わってしまいます。ハンセン病による差別をなくすために修学先生は努力されていた

ことを知り、万人のために尽くされた人だと改めて偉大さを感じました。その他に、子ども達に関することでは、人格の尊重、名前を呼び捨てにしない、お父さんお母さんと呼べる、たくさんほめること、体罰を与えて良い子に育ったことはない、とありました。まさにその通りだと感じました。こんなにも教育の中の一番大切な根っこの部分のことをやり遂げられた先生が作られた学校に通うことに誇りを持ち、この本に書かれていることを少しでも思い出しながら、何事にも感謝できる人間になつていこうと思いました。

修学先生に感謝

D組 鎌田 光希

私は、まず鈴木修学先生がお坊さんでありながらこの日本福祉大学付属高校を設立されたということが、とてもすごいなあと思いました。修学先生がいなかったらこの学校もなく、私も通うことができなかったので、修学先生にとっても感謝しています。本の中で「明日死んでも後悔はなし」という言葉がありました。その言葉は人生を楽しみ、しっかりと不動明王のように強くないと言えないと思います。修学先生の人生の師である杉山先生は「この世に生を受けたからには、功德を積むこと。不幸な人々を助け、人々を幸せに導くことに命を捧げなさい」とおっしゃっています。

この言葉を聞いたとき、この先生は、かなり若い頃から人々に感謝をし、人のために生きてこられたんだなあと強く感じました。自分だったら人々に命を捧げるなんてできないと思います。まず、そんな大したこともできていないので、人にやさしく感謝のできる人間になつていこうと強く思いました。

杉山先生は、人々の憂い、悲しみを自分のこととして受け止め、自らの喜びを他人に分け与えるやさしさの心、これを慈悲というと言っておられます。これを自分の立場で考えてみると、他人に分け与えるやさしさなんてあるのかなあと思ってしまう。自分に自信があるということは、想像できないくらいの努力があったからだと思います。今は、自分のことで精いっぱいなのので、もっと視野を広くして困っている人を助けられるやさしい人間になりたいです。私は本当に修学先生の師である杉山先生がすごい人なんだと思います。杉山先生は自分自身で人々の気持ちになつて考え、修学先生は杉山先生の教えをしつかりと自分の体に染み込ませて続けてきたのだと思います。私は、そんな偉大な先生が自分達に身近な校長先生だったんだということを誇りに思います。すぐには無理ですが、少しずつ人のことを考えて行動のできる日本福祉大学付属高校の名にふさわしい人間になれるよう自分を磨き、また人から尊敬される人間になりたいです。

影の成功者になりたい

E組 山本 愛花

この世の中には二種類の人間がいます。それは人のことを思つて行動ができる人とできない人です。そしてこの本の主人公である鈴木修学先生は、人のことを思つて行動ができたゆえに、困難を乗り越え成功した人物です。この物語はそんな鈴木修学先生の困難や色々な思いと戦い、成功することができた実体験を書かれたものです。私はこの本を読んで、鈴木修学先生のことをとてもすばらしい人だと思いました。しかし、そんな修学先生よりすばらしいと思つた人がいます。それは修学先生が日本の福祉を築くまでに声をかけ、言葉をくれた方々です。

確かに修学先生は日本の福祉を築き、たくさんの方のために行動してきて成功したすばらしい人です。ただ、それまでに関わり、言葉をくださった人はもっとすばらしいのではないのでしょうか。修学先生が悩んでいる時、困難という大きな壁の前に立ち立たされている時、もしその時声をかけて言葉をくれる人がいなかったら多分成功はできなかったのではないかと私は思います。「あなたでなければできない役割がある」「幸せになりたければ幸せの種をまくことが必要でしょう」「法華経で救えない病氣はありません」などといったこれらの言葉をくださった人がいたからこそその成功だと私は思います。

大抵の人はこの本を読んだら、修学先生のようなすばらしい人になりたいと思うでしょう。確かに私もそう思います。しかし、私はそれ以上に声をかけ、言葉をくださった人のような影で誰かの成功を实らせているすばらしい人になりたいと思います。そして私はこのような影の成功者になり、将来多くの人の成功を实らせ近くの人から遠くの人まで、広い範囲までに声をかけ、言葉をあげられるようなすばらしい人として活躍をしていきたいと思っています。色々な人を影で助けることができるようにたくさんさんの経験をして、すばらしい言葉をかけられるよう今からたくさん努力していきます。

鈴木修学先生とは

E組 三澤 茉由

私は『日本の福祉を築いたお坊さん』で鈴木修学先生の話を読んで、まず思ったことは日本福祉大学をつくったのはお坊さんだったのかということです。私はこの学校に、楽しそう、この学校ならやっていけそう、などという気持ちで入ってきましたが、日本の福祉を築いたお坊さんと鈴木正修先生の講義を聞いて初めて成り立ちを知りました。そして鈴木正修先生のお話を聞いていると、日本福祉大学を作った鈴木修学先生は、とても努力をされて本当に日本福祉大学のことが大好きだったんだなと思いました。

鈴木修学先生は杉山先生のことを心から信用していて、自分の人生を捨ててもハンセン病の患者さんを想い、とても優しい方だなと思いました。ハンセン病はとても差別されていて、ハンセン病が出ると家族と離れ離れにされてしまうようなひどい病気として扱われていたと本に書いてありました。それなのに鈴木修学先生はその人達のことを思いお金を集めたり、自分が大切に使っていた懐中時計を売ったりと、とても普通の人ではできないようなことをやっていて本当にハンセン病患者の方を助けたという思いが強かったのだな、と思いました。

鈴木修学先生は自分のことよりも困っている人達を助けたという思いがとても強かったということが、『日本の福祉を築いたお坊さん』を読んでいて伝わってきました。日本福祉大学を設立した理由も、日本の未来のために若者を育てたいという思いで駆け出した、と書いてありました。ここまで他人のことを思って行動を起こせる人は、鈴木修学先生のほかに誰もいないのではないかと思います。私なら途中であきらめてしまうかもしれません。けれども鈴木修学先生は自分のやれることをたくさんやっていて、とても尊敬できる人だなと思いました。

ほめて、ほめて、ほめまくれ

E組 鯉江 流成

今回鈴木正修先生の講義を聞いて、私は「ほめて、ほめて、ほめまくる」という言葉に強く惹かれました。この学校を設立した鈴木修学先生はどんなことがあってもみんなをほめていた、と正修先生から教えていただきました。小さい子や大人、障がいを持って耳が聞こえない人など、この世界にはたくさんの方がおられます。この中で障がいを持っていて、耳が聞こえない人には声を出してほめなくてもいいのではないのか、と思っている人もいるかと思いますが。しかし、鈴木修学先生の体験談を聞いてどのような人にもほめることは大切だととても強く思いました。そのため私もできるだけほめるということを意識して、今後の生活に活かしていきます。

最後に鈴木修学先生から鈴木正修先生へと伝えられた、ある一つの言葉について考えてみたいと思います。その言葉とは「人間は自信を持つことが大切だ」と言う言葉です。この言葉が私はとても心にグサリときました。理由は私自身がきちんと自信が持てなくてとても不安な気持ちでいるからです。しかし鈴木修学先生の、人間は自信を持つことが大切だ、という言葉を頭の隅に入れてこれから生活していきます。そして自分に自信をしっかりと持てるように、日々精進していきます。

志を高く

F組 沼澤 夢乃

鈴木修学先生は、責任感の強く、我が身を削ってまでも人々を助けたいという意欲のある、志の高い人だと思っています。

よく「世のため、人のため」と言いますが、この言葉は修学先生にとっても似合うように感じます。ハンセン病療養所の話も、資金が足らず、自分達も苦しいはずが、修学先生自身の衣服・小物などを売ってうまく運営させるなど、今の人には不可能なことだと私は思います。児童福祉施設の虐待児の話でも、悪さをしたら怒るのが普通です。ですが、修学先生は一切怒ることもなく、その虐待児達のことを尊重し、ほめました。その行為は、今も引き継がれているといいなと思いました。

私は今、クラスをまとめるリーダーをしています。学校行事などの運営、議会への参加などとても大変ですが、修学先生のしてきたことを読むと、リーダーという仕事は大変と言っていられないと思えました。

修学先生は法音寺の住職であり、昭徳会の理事長、そしてこの日本福祉大学の学長として仕事をされたと書いてありました。それは普通の人にはとても無理のある仕事の量だと思っています。ですが、修学先生は人々のためだと思われていたのでしょうか、それらの仕事をまっとうし、そして

「大荒行」も三回行いました。並大抵の意欲、志ではできないと思うことをやってしまうところが、私の尊敬するところです。

私は将来、看護師など医療に携わる仕事に就くために、この学校に入学しました。人の命に関わるので、低い志では務まらない大事な仕事です。医療に携わる仕事に就くためには勉強なども大事です。しかし人と関わる仕事なので、その人を尊重でき、責任感を持ち、常に志を高くしていく必要があるのだと、この本を読んで感じました。

『ほめる』ということ

F組 原田 優理

本日学園長先生のお話を聞いて、修学先生の人柄が理解できました。修学先生は、幼い頃から優秀で、誰かのために動けるとても優しい人なんだなと思いました。修学先生はハンセン病の患者さんや親がいない子、知的障がいのある子を施設に受け入れて看病したり、育てたりしていました。施設にいる人の数はとても多くて、ごはんや着るものを用意しなければならぬのにお金が足りなくなつたとき、修学先生は自分の宝物などを売ってお金にしていたというのを知って、修学先生は自分より人のことを考えているすばらしい人なんだなと思いました。

施設で暮らしている子どもが何か悪いことをしても、決

して怒らず体罰もせず、その子の良いところを見つけてほめてあげることが大切だとおっしゃっていました。だめなときにだめなところを直しなさいと言ってもだめ、だめなりに良いところを探してほめることがすごく大切なことなんだなと思いました。もしほめることがなければ、何か仕事をさせてそのことをほめる。何をしてもほめるというのは、とても人を成長させることのできる育て方だとおっしゃっていました。私はそのことを聞いて、将来子どもができたときは、すぐに叱らないで良いところを探してほめてみようと思いました。

修学先生は、知的障がいの子どもも施設に受け入れていました。知的障がいのある人は力の加減などができにくく、先生に暴力をふるうこともありましたが、そんなときも怒らないで優しく接してほめてあげるのがいいとおっしゃっていました。私は、この話をとても興味深く聞いていました。たとえ自閉症の子どももほめられる言葉とけなされる言葉はわかるという話が心に残りました。

大人でも子どもでもほめられるとうれしいし、次も頑張ろうという気持ちになると思います。悪いところをけなすのではなく、良いところをほめて伸ばすのが大切なんだと思います。

修学先生から学んだこと

F組 三島 結菜

鈴木修学先生はこんなに昔に生まれたのに、自分のことよりも人のことに力を注ぐ、今の道徳の精神を自分で実行していたすばらしい人だと思いました。

菓子パン工場の製造販売に取り組み、その仕事が当たり大きな成功を収めていたのに、そういう形では表せない喜びや幸せを自分で考えて、工場を手放し、杉山先生の「仏教感化救済会」の話聞くことにしました。そうした修学先生の、自分で決めたことに対する責任と硬い意志は、私も見習いたいと思いました。

また「仏教感化救済会」に入った後も、会の創立者である杉山辰子先生の「あなたは自分の正体がわかっていますか」と修学先生に尋ねた言葉が、私にはとても心に残っています。自分が生まれてからこれまでに一度も「自分が何のために生まれて、これから何のために生きていくのか」ということは、この本に出会わなかったらきつと考えもしなかったと思います。これは人間が生きるために考えなくてはならないテーマだと思いました。修学先生はその問いの答えのために、また幸せになるために、たくさんの人々を救うことができた方です。最初は自分の「人生の意味」を求めていましたが、結果的にたくさんの人々を救い、温かい心で助けられた人々を包む「幸せの種」になっていま

した。

また、修学先生のエピソードの中でもすごく心に残ったのは「ほめて育てる」という話です。私もこの話を聞くまでは「悪いことをしたら怒る」、これが正しい教育だと思っていました。しかし修学先生はとにかくほめることを大切にしていました。私も怒られるかほめられるかだったら、ほめられる方がうれしいです。そういう長所を生かす支援の手がこれからも大切だと思いました。

私は本や講演で修学先生の考えや行動を知って、今私達にとっても必要なことだと感じました。自分のこともすごく大切ですが、この日本福祉大学付属高校に入ったからには、不幸な人々に手を差し出せる人間になりたいと思いました。



幸せの種まきⅡ一人が一人を

今日一日、

愚痴を言わず、腹も立てず、

心安らかに生きていきましよう

慈悲・至誠・堪忍を教えられる私達です。誰に
対しても優しく接するのは大きな徳積みですから、
理屈抜きで実行しましょう。

大乗山 法音寺

編集後記

お釈迦さまが説かれた教えが最も純粹に行われた時代が過ぎると、次に形だけ修行し、悟る人がいない時代が来て、その次には世が乱れ、仏教の經典は残っていても、その精神は消失し、正しい修行も行われなければ、悟りも得られないという時代が来るというのが末法思想。

このところテレビや新聞では暗いニュースばかり。連日、誰かの謝罪会見をテレビで見えない日がほとんどないと思うと、今がまさに「末法の世」なのだと思います。

このような混迷する時代、私達は何のためにこの世に生まれ、法音寺で法を学ぶご縁をいただいたのかを改めて考えてみる必要があります。真に「三徳」を実行し、功德を積み、人々を本当の幸せに導く。そのために、私達は先師の遺された教えにふれ、実行していかなければなりません。

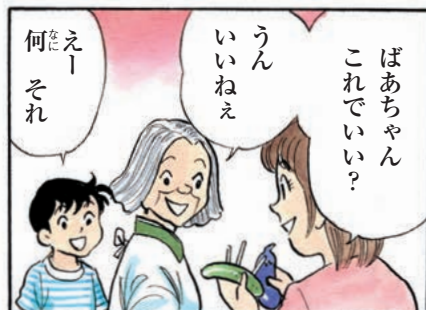
特別企画として平成28年1月号から連載スタートした『聖の教え』が、この度単行本として刊行されることになりました。まさに、法音寺教学の百科事典[※]として、多くの方々に活用されるのだと思います。

また、今月号では「お盆とお施餓鬼」の由来となる物語を漫画で掲載いたしました。法音寺は御開山上人の時代、漫画で仏さまの教えをわかりやすく広めたお寺。その精神を引き継ぎ、ますます皆さんに愛読される『法音』をめざしたいと思っています。



ご先祖さま巡り

竹中 淳



おや
親から子へ
子から孫へと…

ながーい
歴史の中で
命の灯を
決して消さず
ともし続けて
くださった
ご先祖さまに
感謝しなきゃね

うわっ 10代
さかのぼると
1024人
にもなるわ!



ご先祖さまって
どんな人だったん
だろうな

あ
会いに
いって
みるか?



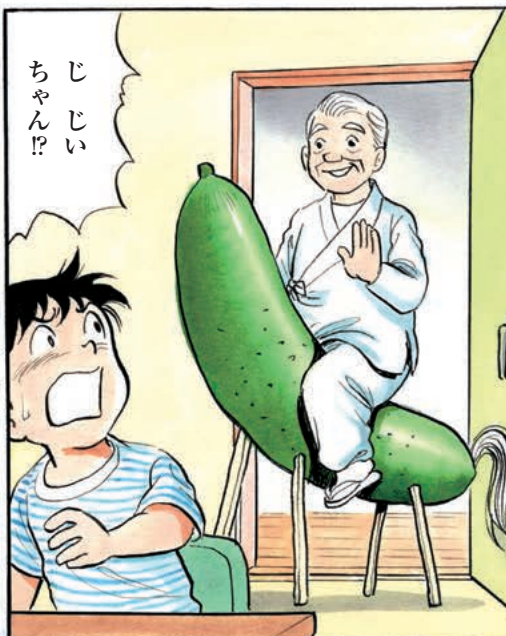
じい
ちゃん!?

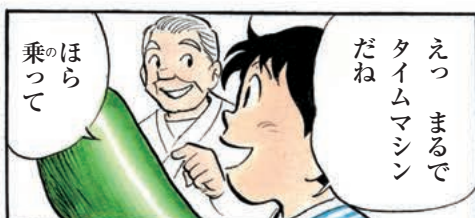
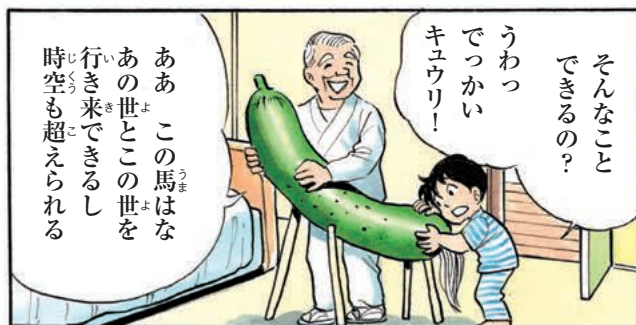
死んだ
じいちゃんが
どうして!?

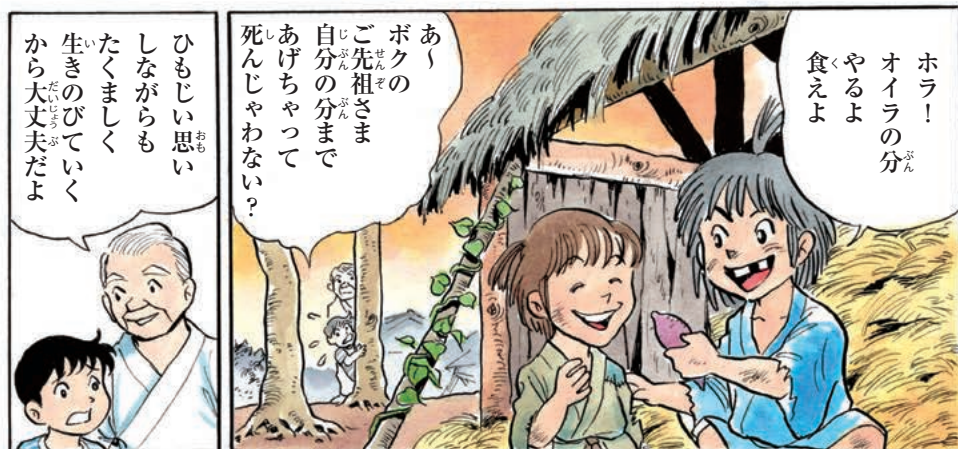
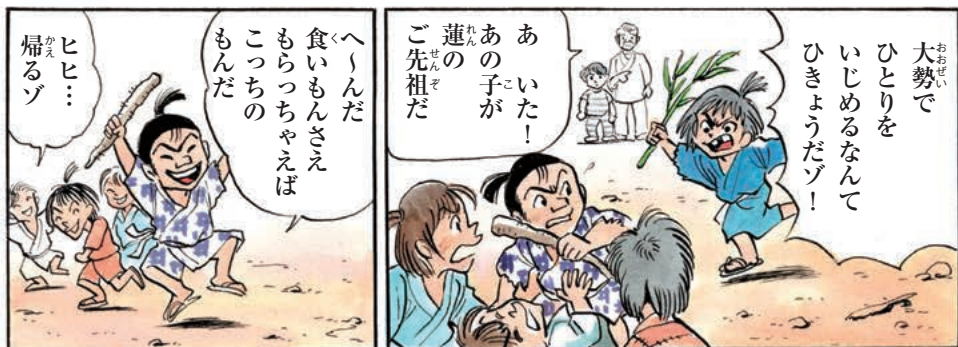
お盆だろ?
ばあちゃんが用意して
くれたキュウリの馬で
さっそく来た 迷惑か?



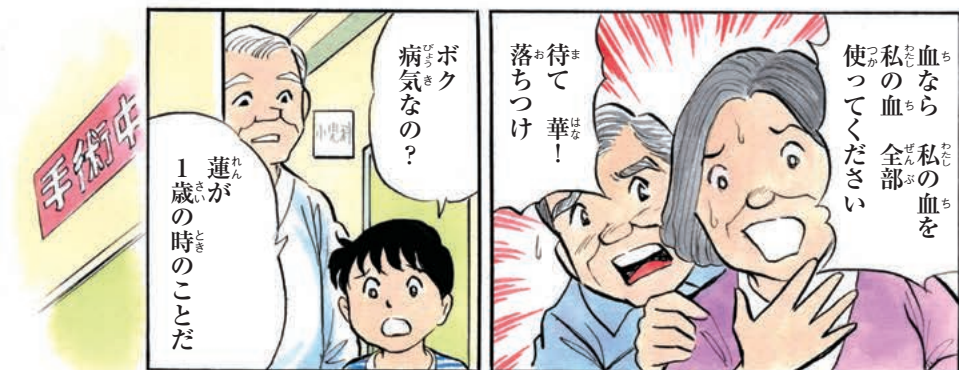
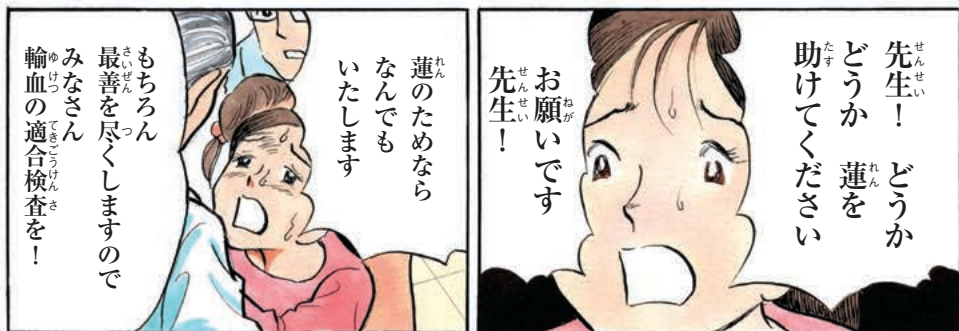
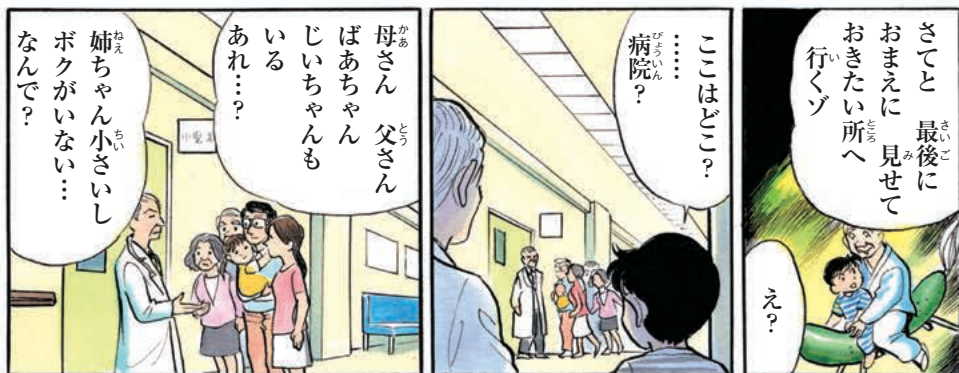
そんなこと
ないけど
本当に
来るなんて…













よかったな
妙子
たえこ

ウウ…

よかった…



南さん
ぶしめい
無事手術は
せいこう
成功しましたよ



さあ
かえ
帰ろうか



姉ちゃん
ねえ
の
分けてあげる

待ってる
ま
家族が
いるんだ！

私の血を
わじ
全部使って
ぜんぶ
ください！

先生！
せんせい
お願いです
蓮を
れん
助けて
たす
ください
この子の
ためなら
なんでも
します



おしまい

書籍のご紹介

法音寺を
知りたい方へ



戦後、法音寺を開山した鈴木修学上人は、仏教の教えを漫画で伝えようと多くの仏教漫画を作りました。当時の仏教界では革命的な取り組みでした。現在、全国の日蓮宗寺院で法音寺の仏教漫画が販売されています。

■まんが

『法音寺物語上・中・下』

法音寺広報委員会 企画

中央法規出版刊

B5版 平均九六頁総カラー

定価 各巻一、〇〇〇円（税別）

法音寺の教えを
学びたい方へ



現代生活の指針

鈴木修学著

四六判／三四五頁

定価 八〇〇円（税込）



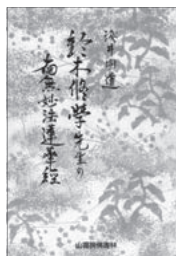
続現代生活の指針

鈴木修学著

四六判／三二二頁

定価 八〇〇円（税込）

仏教を
学びたい方へ



鈴木修学先生の
南無妙法蓮華経

浅井圓道著

山喜房佛書林刊

四六判／二百二頁

定価 一、八二四円（税込）



妙法蓮華経略義

鈴木修学著

青山書院刊

A5版／八六三頁

定価 六、〇〇〇円（税込）

福祉を
学びたい方へ



日本の福祉を築いた
お坊さん

星野貞一郎著

中央法規出版刊

A6版／一六八頁

定価 八六四円（税込）



福祉を築く

西山茂・秦安雄／

宇治合義雄著

中央法規出版刊

A5版／二二三頁

定価 三、六二八円（税込）



知恩報恩

「ありがとう」と言う私から
「ありがとう」と言われる私に

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市長和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

■児童養護施設

駒 名 古 屋	方 養 育 松	寮 院 寮
------------------	------------------	-------------

■障がい児入所施設

小 原	学 園
--------	--------

■障がい者支援施設

小 泰	原 山	寮 寮
--------	--------	--------

■特別養護老人ホーム

安 高 小	浜 原	立 安 立	荘 立
-------------	--------	-------------	--------

■障がい福祉サービス事業

授 産 所	高 浜	安 立
-------------	--------	--------

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケ ア ハ ウ ス	高 浜	安 立
-----------------------	--------	--------

■軽費老人ホーム

ケ ア ハ ウ ス	大 阪	安 立
-----------------------	--------	--------

■養護老人ホーム

養 護 老 人 ホ ー ム	高 浜	安 立
---------------------------------	--------	--------

■自立援助ホーム

慈 か	泉 り	寮 ん
--------	--------	--------

■保 育 所

駒 方 天	保 育 保 育	園 園 園
-------------	------------------	-------------

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市長和区駒方町4-10 TEL (052) 831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日 本 福 祉 大 学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学付属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL (0569) 87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成30年7月号・No.585・平成30年7月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社